令和５・６年度
高崎市公民館運営審議会提言

令和７年３月５日

高崎市公民館運営審議会

― 目 次 ―

提言
「持続可能な地域づくりの拠点としての新しい公民館の在り方～コロナ禍を超えて～」

はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

１　再認識した「居場所」としての公民館 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

２　リアルでもオンラインでも「つながる」公民館 ・・・・・・・・・・・・・ 5

３　困難な時にも「新しい学び」を創出する公民館 ・・・・・・・・・・・・・ 7

４　地域の人たちの「活躍の場」がある公民館 ・・・・・・・・・・・・・・・ 9

５　多様な人たちが交流し「地域をつくる」公民館 ・・・・・・・・・・・・ １１

むすびに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １３

コロナ禍における公民館の取組状況の変化に関する調査結果 ・・・・・・・ １４

資料 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ４３
・審議会実施報告
・専門委員会実施報告・委員に関わる公民館行事
・委員名簿

提言
「持続可能な地域づくりの拠点としての新しい公民館の在り方
～コロナ禍を超えて～」

はじめに

高崎市公民館運営審議会（以下、「本審議会」）は、高崎市公民館連絡協議会の承認を経て、令和５・６年度「持続可能な地域づくりの拠点としての新しい公民館のあり方～コロナ禍を超えて～」に関する提言を行うことを決定しました。本提言の特徴は、コロナ禍を振り返り、今後の公民館を展望することにあります。

令和２年（2020 年）１月、日本で新型コロナウイルス感染症（以下、「感染症」）が確認され、４月７日には緊急事態宣言が発令されました。その後、多くの公民館が休館や事業の休止を余儀なくされました。高崎市では公民館の閉館期間を約１ヶ月にとどめましたが、主催事業の中止や縮小、公民館利用団体の活動自粛など、これまでに経験のない深刻な影響が生じました。令和５年（2023 年）５月８日、感染症が５類に移行しましたが、事業の継続が困難になったり、利用団体の活動が停滞したりするなど、現在も影響は続いています。

このような状況の中、感染防止対策を徹底しながら事業の実施や定期利用団体の活動を継続することが、地域の人々の交流促進に寄与しました。ＩＣＴを活用したオンライン講座や動画配信を増加させ、「学びを止めない」ための取り組みを行ったことや、定期利用団体が活動を継続したことで、仲間とのつながりが強まり、生きがいを感じたとの報告がありました。この現象は、地域住民のたくましさや知恵、逆境に対する強さの表れと捉えることができます。こうしたコロナ禍での公民館の実態に基づく提言は、住民の学びを止めない「持続可能な地域づくりの拠点としての新しい公民館のあり方」を模索する一助となると考えます。

今後、社会が「変化が激しく予測困難」な時代に突入することが推測される中で、公民館のあり方も変わらざるを得ません。例えば、「新たな感染症の流行」「急激な少子高齢化」「想定外の災害」「自然環境の破壊」「異常気象」「国際紛争の勃発」「グローバル化の進展」「IT 技術の進展」「人工知能の進化」など、数々の喫緊の課題に対して、公民館も意識を持ち、適切に対応していく必要があります。

このような予測される状況に基づく今回の提言は、「新たな感染症の流行」などの危機に対応する際の参考となるものです。また、想像を超える危機に対応した体験は、公民館の役割である「人づくり」「人々のつながりづくり」「地域づくり」を通した具体的な事例となり得ます。

本提言をまとめるにあたり、各公民館の館長および主事を対象にアンケート調査を実施しました。集約された結果は、提言の柱を構築するための基礎資料として、専門委員会による原案の検討や審議会での協議に活用されました。

アンケートでは、以下の４つの観点に基づき、コロナ禍における公民館の状況を確認しました。

１．コロナ禍で中止した事業

２．コロナ禍で新たに取り組めたこと

３．利用団体の変化（解散、活動状況、活動への意識など）

４．今後の取り組み

提言は以下の５つの柱から成り、それぞれに３つの小項目（調査結果から・今後の公民館運営への提言・参考事例）を設定しています。

１．再認識した「居場所」としての公民館

２．リアルでもオンラインでも「つながる」公民館

３．困難な時にも「新しい学び」を創出する公民館

４．地域の人たちの「活動の場」がある公民館

５．多様な人たちが交流し「地域をつくる」公民館

本審議会は、高崎市の公民館事業のさらなる拡充に向けて、この提言を適宜参考にしていただきたいと考えています。

１　再認識した「居場所」としての公民館

【調査結果から】

コロナ禍で社会全体の活動が停滞し、地域においてもイベントの中止、町内会活動の縮小などにより地域での人的交流がほとんどなくなってしまった中で、高崎市の公民館では閉館期間を１カ月程度に留め、感染防止対策を徹底しながら主催事業の開催や定期利用団体の活動を継続してきたことから、この間の地域住民の交流に寄与できたと考えられる。

こうしたことから、公民館の定期利用者から、「公民館くらいしか安心してみんなが集まれるところはない」と言われるなど、公民館が地域の拠りどころとなり、「居場所」としての役割を果たし得ることが改めて認識される結果となった。

コロナ禍を経験したことにより、公民館の利用者が、公民館で活動できることは「当たり前」ではないと捉え直すことにつながり、仲間同士で集まって活動する時間をそれまで以上に楽しみ、大切にしている様子が伺えるとの報告があった。

今後の公民館事業のあり方として、地域の実情に即し、住民同士のきずなを作れるような事業を企画したいとした公民館があった。具体的には、①高齢者への支援、②家庭・学校・職場以外で子どもや親子、子育て中の保護者が安心して気軽に寄ることができ、交流できる地域の居場所づくりなどが挙げられた。

【今後の公民館運営への提言】

１　広報

（１）現在の公民館利用者だけではなく、特に若い世代に対して、「居場所」としての公民館を広くＰＲする方法を検討する。

（２）公民館の「つどう」「まなぶ」「むすぶ」という基本的機能を若い世代に積極的に周知するための方法として、ＩＣＴの活用を進める。

２　定期利用団体

（１）公民館と定期利用団体との連絡会議を定期的に開催し、団体からの意見・要望を吸い上げて公民館運営に生かす。

（２）定期利用団体の現状について把握し、活動の活性化に向けた支援策を講じる。

３　公民館主催事業

（１）公民館が「居場所」となるよう、青少年や勤労者世代などを呼び込める施策を講じて行く必要があり、そのためのボランティア養成講座や新事業の企画・立案・実施を行う。

（２）多世代の公民館利用を促進するため、親子が共に楽しめるプログラムやデジタルスキルを活かした若者向けイベントを企画する。

（３）活動の場を公民館だけに限定せず、近隣の公園等の施設に設定して他団体や関係機関と連携した①多世代交流事業、②体験型事業を企画して、「居場所」についての発想の転換を図る。

４　施設・運営等

（１）現在の施設のあり方を再検討・再活用して、地域住民の交流の場・憩いの場として事前申し込みなしで使用できるスペースを確保する。

（２）青少年や勤労者世代が利用しやすい時間・曜日（夜間・土日など）に主催事業を企画するなど、施設の利用時間を弾力的に運用できるようにする。

（３）インターネットや電話による施設の申し込み方法を認めるなど、勤労者世代に対する利便性の向上を図り、多様な世代の「居場所」とする。

（４）駐車スペースが十分に確保されない公民館が多数あり、イベントや講座開催時など大勢の人たちが来場する際、駐車できないことで来館しづらいといった面があるため、借り上げ駐車場の確保など、利用者の利便性の向上を図る。

【参考事例】

「いまを楽しんで♪自然な笑顔あふれるおやこじかん」（佐野公民館）

ＮＰＯ法人と連携し親子のふれあいを育む事業を実施、ゆったりと過ごせる雰囲気づくりにより地域での親子の交流のきっかけとなっている。地域の人材や団体と連携して継続的に事業に取り組むことで、親子が安心して集い、交流できる居場所づくりにつながる。

「東ランチ」（東公民館）

夏休み期間中、地域において一人で昼食を食べている子どもが多いことから公民館をみんなで昼食を食べる場所として提供している。地域のニーズをとらえ、講座やサークル以外でも、気軽に集える場所として公民館を活用することは、公民館が地域における居場所となる上で有効だと考える。

２　リアルでもオンラインでも「つながる」公民館

【調査結果から】

コロナ禍でやむを得ず中止せざるを得ない事業があったが、地域の人たちの「学びを止めない」ために事業を実施するにあたって様々な工夫が生まれた。その中で、ＩＣＴを活用したオンラインによる講座等の開催や動画配信が大きく進展した。今後の社会を見据えた場合、ＩＣＴの活用がますます重要性を増していくことは間違いないが、現状では高齢者を中心にデジタルリテラシーの格差が課題として挙げられる。

コロナ禍が収束して定期利用者が公民館に集えるようになると、公民館を利用して活動できる喜びや有難さを感じている人が増え、対面による交流でしか生まれないメリット、オンラインでは得られない満足感と充足感があることが分かったという意見や、ハイブリッド型による講座開催時に、対面での参加者とオンラインでの参加者の間で温度差が生じてしまい、対面により参加者同士の交流をもつことが大切であると感じることができたという意見が寄せられた。

今後の事業については、①普段、関わることが少ない人同士が公民館事業を通して対面で交わることができるような企画、②デジタルリテラシーの向上を目指した事業の企画を充実させたいという、リアル、オンライン両面に関する意見があった。

【今後の公民館運営への提言】

１　広報

（１）高崎市生涯学習情報サイト「まなびネットたかさき」における公民館の講座情報の活用について周知するとともに、公民館のウェブサイトやＳＮＳのデジタルコンテンツの充実を図る。

（２）イベントや事業をオンライン配信し、スマートフォンで見られるようにする。

（３）公民館利用者が気軽に交流できるオンラインコミュニティ（地域ＳＮＳ）を構築することで、情報共有や住民間の連帯感を深める。

（４）ＡＩを活用して、利用者の興味や参加履歴に基づくデータを集積、地域住民へのアンケートを実施し、おすすめのイベントや講座等の提案をスマートフォンアプリで提供し、住民が積極的に公民館を利用できるようにする。

２　定期利用団体

（１）普段から会員間、代表者と公民館とのコミュニケーション手段は複数持ち、緊急の事態にも対応できるようにする。

３　公民館主催事業

（１）参加者の都合や健康状態に応じて選択できるように、対面とオンラインを組み合わせたハイブリット型イベントを定期的に実施する。

（２）スマホ教育やパソコン教育など高齢者を含む地域住民のデジタルリテラシー向上を支援する事業を実施し、公民館での学びを生かしてオンラインコミュニケーションを通じた新しい交流の場を創出する。

（３）過去の講座やイベントをアーカイブし、地域住民がいつでも学びを得られる仕組みや環境を整備する。

４　施設・運営等

（１）「公民館オンライン講座」を配信することにより公民館での講座に参加できない人たちにも受講の機会を提供することができ、動画配信により繰り返し学習することもできるなどのメリットも考えられるため、ハード面の費用を考慮しつつ実施に向けて検討する。

（２）ソーシャルメディアを有効活用するとともに、ソーシャルメディアについての運用ポリシーを定め、安全で快適な運営に努める。

（３）地域の様々な文化活動、地域活動の情報が集まり、その情報に誰もがアクセスできる仕掛けをつくる。

【参考事例】

「金古南足門情報局」（金古南足門公民館）

公民館と地域住民有志が協働し Instagram アカウント「金古南足門情報局」を立ち上げ、講座のお知らせや講座の様子、参加者の感想などを発信。ＳＮＳの活用により幅広い地域住民へ情報を届けるとともに、地域住民と協働して取り組むことで、地域人材の育成や住民同士のつながりづくりにもなる。

「ちょこっと♪クリスマス会」（東公民館）

図書ボランティア及び大学生と協力し実施するクリスマス会。学童クラブと連携し、会場である公民館と学童クラブをオンラインでつなぎ開催、さらに参加者の自宅からオンラインでも参加できるようにしており、対面とオンラインの多様な参加方法で交流を図っている。

３　困難な時にも「新しい学び」を創出する公民館

【調査結果から】

「困難」とは、コロナ禍だけを指すのではなく、公民館の利用者数の減少や若年層の利用の伸び悩み、定期利用団体の会員の減少や高齢化などさまざまな状況が含まれる。

コロナ禍で、公民館の主催事業を中止することも可能であったが、地域の人たちの「学びを止めない」ために、「おうちで公民館」をはじめ各公民館が創意工夫しながら新たな「学び」のスタイルを模索してきた。

以前から会員の減少や高齢化が課題となっていた定期利用団体は、コロナ禍で活動休止となって以降、通常の生活が戻っても活動の再開に至らなかったケースが見られた。半面、活動を継続していた定期利用団体では、会員が困難な状況の中でも活動を継続する意義を認識し、仲間との関係を深め、活動することに生きがいを感じる様子が伺えた。

公民館における定期利用団体に対する支援策として、定期利用団体の活動を公民館の主催事業として実施することで、新しい会員の獲得に結び付けた事例があった。

通常の生活が戻る中で、①定期利用団体の一覧表を見て加入を検討する人や活動を見学する人、②「まなびネットたかさき」を見て地域外から公民館主催事業に参加する人、③単発や不定期で利用する団体が増えている公民館があり、市民の生涯学習に対する関心の高さの表れであると推測される。

【今後の公民館運営への提言】

１　広報

（１）公民館アプリを制作し、どのような活動、事業、講座が行われているか見ることができ、なおかつ、そこから事業や講座等に申込みできるようにする。

２　定期利用団体

（１）高齢化による活動減少が目立つ定期利用団体に対しては、活動内容の再評価と新たな会員募集を支援する。

（２）活動が縮小したことで学びのモチベーションが低下するという課題に対して、学習者同士が交流できるコミュニティを意図的に形成する。

３　公民館主催事業

（１）困難な時こそ、地域の役員や公民館運営推進委員と公民館職員（館長、主事、事務職員）が連携できる体制を整えて事業を実施する。

（２）困難な状況においても「学びたい、集いたい」という住民の意思に応え、地域の実情と住民の要望に沿った事業を、関係機関と連携して実施する。

（３）地域の学校、企業、ＮＰＯ等と連携した共同の学びの機会を創出する。

（４）地域の中には声には出さず公民館活動にも参加していないが、日ごろ学びに取り組んでいる人、学びを求めている人がおり、そうした人材を発掘、発信、活用するような「身近な人」に学ぶ風土を醸成する。

（５）歴史、文化、民俗など地域の特色を生かす活動に取り組むことで地域資源の掘り起こしを図る。

４　施設・運営等

（１）非常時においても学びを継続できるよう、定期的にオンライン講座や非常時対応プログラムの訓練を実施する。

【参考事例】

「安中総合学園生徒が教える！花の寄せ植え講座」（六郷公民館）

安中総合学園の生徒が授業で花を育て行事等の会場に移植していたが、コロナ禍で行事等が中止となる中、育てた花を有効活用し生徒の活動の場を設けるために、学校と連携して生徒が講師となる寄せ植え講座を実施。参加者と生徒の世代間交流にもつながった。その後、市内の複数の公民館へ同様の講座が広がっている。

「久留馬地区盛り上げ隊」（久留馬公民館）

高崎経済大学で講座企画ボランティアを募り、集まった学生により結成された久留馬地区盛り上げ隊と公民館が協働し事業を実施。コロナ禍をきっかけにYouTube で地域に関する動画の配信を行い、その後も Instagram での情報発信や講座の企画・運営、小学校と連携した地域の文化財めぐり動画の制作など、これまでにない事業に取り組んでいる。

４　地域の人たちの「活躍の場」がある公民館

【調査結果から】

公民館は、地域のすべての人たちの「活躍の場」であるが、既存の定期利用団体が多すぎて部屋が足りず、それ以外で利用したい人が利用できないという課題を抱えた公民館があった。しかし、コロナ禍を経験して解散する定期利用団体が出てきたことで、新しい団体が活動を始める余地ができたという変化も見られた。また、長年にわたって固定化された会員で活動していた定期利用団体が、会員の減少により新規会員を募集するようになったという例もあった。

このように、コロナ禍での経験は、既存の定期利用団体の活動の縮小、解散という状況を生み出した反面、定期利用団体の抱える課題に対して、①新旧（世代）交代、②活動の刷新や活性化の促進というプラスの側面があったことも指摘できる。公民館で新たな利用者が活動することにより、地域人材のさらなる発掘にもつながり、今後、新規事業の立ち上げも期待できる。

公民館としては、①会員を募集したいと希望する団体へのサポート、②新規の定期利用団体を増やせるような講座の開催、③新規団体を作るために必要な情報の周知などを考えていく必要があるという意見があった。さらに、利用者（とその予備軍を含め）の声をよく聴いて、事業の企画・運営にあたることの大切さを感じたとの意見も寄せられた。

【今後の公民館運営への提言】

１　広報

（１）コロナ禍を経験し、公民館のよさや役割を再確認した人が多かったので、そうした地域住民の思いなどをもっと発信する。

（２）「公民館だより」で個人や定期利用団体の活動状況や考え方などを、積極的かつ粘り強く日常的に発信する。

２　定期利用団体

（１）定期利用団体の人たちを中心とする「人材バンク」をつくり、地域人材の活用を図る。

３　公民館主催事業

（１）子どもから高齢者まで、それぞれの得意な分野で教えたり、発表したりすることができる小さな場づくりをする。

（２）地域のリーダーとなる人材を育成するためのプログラムを設けて、地域活動を牽引する力を育む。

（３）他の地域や団体との連携を強化し、地域活性化を目指すコラボレーション企画を積極的に推進する。

（４）講座やイベントの開催の企画にあたって、公民館運営推進委員会の活用や地域のボランティア人材の育成及び活用を図る。
（５）地域でスキルを持った人材を巻き込んでイベントの企画、年間行事計画等の立案を行う。
（６）地域課題をテーマにして、現場に即して、講座や学習会をくりかえし、そこで育った人たちが地域でボランティアとして活躍できるように支援する。
（７）地域資源の活用として、地域の特産品や文化について地域住民と共に学び、地域の企業やＮＰＯ、協同組合等と連携してイベントを企画し、参加者が活躍できる場を広げる。
（８）高齢者、障害者、外国人、困難を抱える人々など、全ての住民が孤立することなく、地域社会の構成員として社会参加できるよう社会的包摂に寄与する。

４　施設・運営等
（１）多様な背景を持つ住民が自然に交流できる場が不足している現状を踏まえ、文化や価値観の異なる人々が気軽に集える場を提供する。
（２）公民館が常に地域の人々を受け入れるよう、夜間や土日休日の活用のし方を工夫する。
（３）地域でできそうなことをテーマにして、ボランティア相談制度をつくる。
（４）校区の生涯学習推進員との連携や活動への支援の強化を図り、生涯学習社会の実現を図る。

【参考事例】

「下里見チョイ to 助け隊」（下里見公民館）
図書ボランティアや公民館利用者の有志で公民館ボランティアチームを結成。人手が必要な講座の運営のサポートや講座実施のアドバイスなどで協力してもらっている。地域の学習活動がより充実するよう、利用者等にできる範囲で公民館に協力してもらう体制を作っている。

「雑学おはなしの会」（城山公民館）
生涯学習推進員が企画・運営。校区内の住民を講師として、自己の専門分野や特技等について語ってもらう。毎年度、地域住民３名の方が自身の経験等に基づく話を披露している。このような地域住民の発表の場を設けることは、地域住民の交流の機会となるとともに、地域人材の発掘・育成にもつながる。

５　多様な人たちが交流し「地域をつくる」公民館

【調査結果から】

近年、地域コミュニティの関係性が薄れ、地域活動の担い手の減少や人材確保が困難となっている状況が指摘され続けてきたが、コロナ禍によりこうした課題が加速度的に深刻さを増した。そうした中で、「つどう」「まなぶ」「むすぶ」機能をもつ公民館が、地域連携の強化と推進の要となることが改めて強く意識されるようになった。

コロナ禍で学校が臨時休校していたとき、公民館は児童の受け皿として機能した。また、館長の働きかけで区長会定例会に小学校長、館長が参加することで地域や小学校の課題を共有することができた公民館があった。さらに、この時期に公民館・学校・地域住民がつながりを確保していたら児童への対応が変わったのではないかという反省を踏まえ、公民館が地域づくりの拠点として、感染症や災害など非常事態でも継続した活動や提案を行ってくことが重要であると認識したという意見が見られた。

コロナ禍を経験して、既存の組織や制度が大きく揺らぐ中、新しい利用者や団体、活動が生まれるという良い変化も経験した。こうした変化を捉えて、これからも多様な人たちが交流しながら地域をつくる拠点として、公民館が位置づけられることが求められる。

【今後の公民館運営への提言】

１　広報

（１）公民館の情報だけでなく、地区役員、各種団体、介護施設・関係者など地域活動に関わっている人や地区の仕組みなどの情報も提供する。

（２）「公民館だより」で地域の情報などを発信し、より親しみの持てるものにする。

２　定期利用団体

（１）公民館職員が積極的に利用者とコミュニケーションを図り、定期利用団体や会員などに対しては必要な支援と励ましを行うことに努める。

３　公民館主催事業

（１）地域の中の子育てに関わる人たちを横につなぎ、情報交換をしながら地域課題として解決方法を探る。

（２）地域の人材を発掘して講師や発表者になってもらい、さらに活躍の場を広げ地域づくりにつなげる。

（３）多世代で交流できるプログラムを導入して地域全体の活性化を図るとともに、世代を超えた交流の場を提供する。

（４）多文化共生をテーマとしたイベントを定期的に開催し、地域住民が異文化を学び、多様な人たちとの交流を深める機会を提供する。

（５）多様性と社会的包摂へ寄与するため、全ての住民が孤立することなく、地域社会の構成員として社会参加できるよう生きがいづくり、地域とのつながりづくりができる交流イベントや講座を企画し、提供する。

４　施設・運営等

（１）年代を問わず公民館を利用してもらえるような価値の創造（イメージ戦略）として、公民館の施設を中高生の自習室やさまざまな活動の場として貸し出す。

（２）日頃から地域住民との顔の見える関係づくりを強化し、安心・安全（防犯・防災活動）な地域づくりの拠点としての活用を図る。

【参考事例】

「片岡ほっと！HOT！café」（片岡公民館）

毎月第２・第４火曜日の午後に、誰でも気軽に足を運ぶことができ交流できる場所として公民館を開放し、地域住民が主体となってイベントやカフェを運営している。定期的に世代を問わず気軽に集える居場所をつくることで、地域住民の交流や主体的な活動につながっている。

「中学校との連携事業」（寺尾公民館）

中学生と地域住民が一緒に地域を巡る歴史散策や公民館で開催する文化祭公開リハーサル、生徒・地域住民・教員・公民館が地域について話し合う座談会など、中学校と連携した様々な事業を行っている。高崎市では中学校と地域をつなぐ事業を行う公民館は比較的少ないが、世代間交流の場になるとともに中学生が地域に主体的に関わるきっかけとなる取り組みである。

むすびに

本審議会は、これまでも令和元・２年度の答申及び３・４年度の提言、また、福島第一原子力発電所事故後の緊急答申などの危機を乗り越えた事例を通して、今後の危機管理や地域支援の指針を示してきました。

高崎市の公民館には、公民館活動がさらなる発展を遂げ、地域の持続可能な発展を支援することが期待されています。今回の提言は、公民館が地域社会においてどのように変化に対応し、役割を果たすべきかを模索するための大切な資料となると考えています。

コロナ禍における公民館の取組状況の変化に関する調査結果

【調査対象】高崎市地区公民館４４館

【調査期間】令和６年１月１２日（金）～２月２２日（木）

【調査対象年度】令和２～５年度

【調査結果】

１　公民館事業について

（１）コロナ禍により、それまで継続して実施してきた事業で中止せざるを得なかった事業、計画していたが実施できなかった事業があれば記入してください。

No.	事業名	年度	内　容	中止又は未実施の理由
1	みんなでファイト「放課後宿題教室」	R2	宿題、学習相談及びZoom、プログラミング体験	小学校と協議をし、児童のコロナ罹患を避けるために中止とした。
2	花編みバッグ作り教室	R2	クラフトテープを使用してバッグを作る	講師から、感染症が心配との申出によるため
3	夏休み！子どもポスター教室	R2	夏休みの課題のポスターを作成	コロナの影響により、夏休みの課題にポスターが無かったため。
4	みんな集まれ♪ハロウィン	R2	読み聞かせボランティアと０号館との共催事業	ボランティアからの申し出により未実施
5	クリスマス会	R2	読み聞かせボランティアと高崎経済大学ボランティアサークルＡＣＴとの共催事業	ボランティアからの申し出により中止
6	日本独自の芸術～香道に親しもう！～	R2	生涯学習推進員共催。香道についての話を聞きながら、香木を焚いて香気を楽しむ。	緊急事態宣言により閉館したため。
7	心豊かな地域づくりのための懇談会	R2	人権啓発映画「君が、いるから」視聴	群馬県の新型コロナウイルスの警戒度が２に上がったため。
8	夏休み子ども映画会	R2	小学生対象の映画上映会	不要不急の外出を避けるため
9	夏休み子どもパン作り教室	R2	小学生対象の料理教室	講師からの要望で未実施
10	おもしろ歴史教室	R2	史実に基づいた歴史解説	講師からの要望で未実施
11	さわやか元気教室	R2	主に高齢者を対象とした各種教室	不要不急の外出を避けるため
12	健康料理教室	R2	昼間の成人を対象とした料理教室	講師からの要望で未実施
13	クリスマス会	R2	子どもを対象に人形劇鑑賞等	不要不急の外出を避けるため
14	にこっとサロン(共催)	R2	未就学児とその保護者を対象にしたサロン（毎月１回）	不要不急の外出を避けるため６月まで中止。７月から再開したが、参加者のない月もあった。
15	地域づくり活動協議会事業(共催)	R2	スポーツや芸能など地域住民参加の各種事業	不要不急の外出を避けるため
16	ママと Baby のリラクゼーション	R2	産後ママのヨガやベビーマッサージの実習と育児や離乳食等についてのお話し。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
17	クリスマス会	R2	子どもと保護者を対象に、読み聞かせ、大型絵本、手遊び、パネルシアター等を催す。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
18	夏休み子ども卓球教室	R2	小学生向けの基本的な卓球技術の習得	講師よりコロナが流行っているので、中止にしたいとの要請があったため。

No.	事業名	年度	内　容	中止又は未実施の理由
19	箕輪城寿大学　保渡田古墳とかみつけの里博物館見学	R2	かみつけの里博物館見学、保渡田古墳群の解説を聴きながら見学。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
20	箕輪城寿大学　入学式・箕輪から和田へ、そして高崎	R2	高齢者が生きがいをもって生活するために、趣味・教養・健康並びにレクリエーション等の学習を行う。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
21	箕輪城寿大学　腸から始める健康づくり	R2	健康な体を作り維持するために大切な腸を健やかに保つ秘訣を学ぶ。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
22	箕輪城寿大学　脳活性化トレーニング教室	R2	簡単なゲームをとおして脳機能を高め、認知症予防の「脳トレーニング」を楽しむ。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
23	箕輪城寿大学　民話と伝説の舞台	R2	群馬県内各地の、民話と伝説やその舞台となった地域について学ぶ。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
24	おりひめ学級　開級式・上毛新聞出前講座	R2	生活に役立つ情報を上手に取り入れるために、「新聞の活用法や意外と知らない新聞のこと」を学ぶ。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
25	おりひめ学級　ラフターヨガ体験	R2	大声で笑うと有酸素運動になり、免疫力向上やストレス解消の効果があるということで、「こころ」も「からだ」も健康になるよう、みんなで楽しく大笑いして楽しむ。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
26	おりひめ学級　水害（カスリーン台風）に備えて	R2	水害に備えての基本知識について学ぶ。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
27	箕郷公民館まつり	R2	公民館利用団体が主体となり実行委員会を立ち上げ、公民館で日頃活動している成果を地域の皆さんに発表することにより、各団体への新規加入の促進と活性化を図るもの。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
28	心豊かな地域づくりのための懇談会	R2	人権啓発映画の視聴および人権擁護委員からの助言	群馬県の新型コロナウイルス感染症拡大防止の警戒度が２であったため、社会教育課より中止の判断となった。
29	染物体験教室～大判シルクストール染め～	R2	手描き友禅の知識を学び、電子レンジを使用して、大判シルクストール染めをおこなう	講師よりコロナが流行っているので、中止にしたいとの要請があったため。
30	少年少女チャレンジ教室(クリスマスの料理)	R2	学童の料理教室	コロナ感染対策により
31	夏休みファミリー映画会（名作映画編）	R2	学童の映画鑑賞	コロナ感染対策により
32	人権教育推進講座	R2	人権教育	コロナ感染対策により
33	心豊かな地域づくりのための懇談会	R2	人権教育	コロナ感染対策により
34	中華まんづくり教室	R2	肉まんとあんまん二種類のまんじゅうを作る	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、飲食を伴う調理実習は中止。
35	沖縄三味線と津軽三味線の響き	R2	演奏	事業の受講者や出演者が多数おり、感染症予防が困難と判断した。
36	心豊かな地域づくりのための懇談会	R2	講演	事業の受講者が多数おり、感染症予防が困難と判断した。
37	聴いて歌おう日本の歌	R2	プロの歌手がピアノ伴奏で歌唱、受講者も一緒に歌唱する。	感染予防のため、講師の歌唱、大勢の一斉歌唱を控えたことによる。

No.	事業名	年度	内　容	中止又は未実施の理由
38	聴いて歌おう日本の歌	R2	日本の歌曲コンサートならびに参加者も一緒にうたう	発声をともなう事業であり、募集人数も多く、室内が密になり新型コロナの感染が懸念されたため。
39	アカペラコンサート	R2	アカペラの演奏を聴く	講師の意向により中止
40	片岡４校区「小学生ランニング（運動会）教室」	R2	片岡４校区の小学生を対象に専門家より走ることが運動の基本であることを学ぶ。	小学生が対象であり、新型コロナの感染が懸念されたため。
41	片岡４校区「小学生ランニング（持久走）教室」	R2	片岡４校区の小学生を対象に専門家よりストレッチを取り入れながら、持久走に必要な動きについて指導を受ける。	小学生が対象であり、新型コロナの感染が懸念されたため。
42	ハンドベルをみんなで	R2	幼稚園児・小学生を中心としたハンドベル	新型コロナ感染防止のため
43	つくってみよう	R2	幼稚園児・小学生を中心とした工作	新型コロナ感染防止のため
44	クイズや体験で学べる防災教室	R2	子どもの為の災害時の対策や避難所での行動を学ぶ	講師の意向により中止
45	心豊かな地域づくりのための懇談会	R2	人権教育推進事業（社会教育課）	群馬県コロナ警戒度に基づき中止
46	夏休み子どもポスター教室	R2	公民館主催事業	夏休み期間の短縮及び新型コロナウイルス感染症拡大防止のため
47	夏休み子ども書道教室	R2	公民館主催事業	夏休み期間の短縮及び新型コロナウイルス感染症拡大防止のため
48	人権教育推進講座	R2	社会教育課より依頼を受け実施する人権講座	例年、学童保育や定期利用団体に参加を呼びかけて実施していたが、学童保育側が感染症予防のための参加できなくなった。また、３密を避ける必要性から事業を中止したもの。
49	親子パン教室	R2	親子でパン作りに挑戦し、食の楽しさや大切さを体験してもらう。	例年、夏休み期間に親子を対象としたパン教室を開催していたが、感染症対策のため館内での飲食を制限していたため、中止したもの。
50	武者行列着付け教室	R2、3	武者行列に参加する小学生と大人を対象に事前に行う着付。	コロナのため、地区で実施している鎌倉街道武者行列が中止となったため。
51	西地区歴史探訪「バスハイク」	R2、3	地域づくり活動協議会との共催で西地区住民を対象にバス1台を借り上げ郷土の歴史に触れる機会を提供する。	バスの車内という狭い空間では感染リスクが高いと判断した。
52	午後のギターコンサート	R2、3	ギターの演奏	新型コロナ感染拡大防止のため
53	七夕まつり	R2、3	読み聞かせボランティアと０号館との共催事業	ボランティアからの申し出により未実施
54	ひなまつり	R2、3	読み聞かせボランティアと０号館との共催事業	ボランティアの申し出により中止
55	ＡＣＴ祭	R2、3	高崎経済大学ボランティアサークルＡＣＴとの共催で公民館全館を貸し切った夏祭り	コロナの感染状況を鑑み、未実施
56	八幡地区地域づくり活動協議会主催バスハイク	R2、3	県外バスハイク	コロナ禍のため中止
57	みんなで作る音楽祭	R2、3	演奏・合唱	事業の出演者が多数おり、さらにたくさんの観客が見込まれるため感染症予防が困難と判断した。
58	心豊かな地域づくりのための懇談会	R2、3	啓発ビデオの鑑賞後、グループに分かれての意見交換	感染症予防のため。
59	古典を楽しむ教室	R2、3	古典の学習	コロナ禍を理由とする講師辞退

No.	事業名	年度	内　容	中止又は未実施の理由
60	片岡４校区バレーボール大会	R2、3	片岡・乗附・寺尾・城山地区の住民の交流	感染防止のため中止とした。
61	片岡４校区ソフトボール大会	R2、3	片岡・乗附・寺尾・城山地区の住民の交流	感染防止のため中止とした。
62	片岡４校区グラウンドゴルフ大会	R2、3	片岡・乗附・寺尾・城山地区の住民の交流	感染防止のため中止とした。
63	乗附校区町内対抗グラウンドゴルフ大会	R2、3	乗附小校区住民の交流の場	感染防止のため中止とした。
64	乗附公民館　文化祭作品展示会	R2、3	地域･学校･公民館による連携事業。日頃の成果の発表の場。	感染防止のため中止とした。
65	ふれあいいきいきサロン	R2、3	地域・学校・公民館による連携事業。世代間交流の場	感染防止のため中止とした
66	阿久津町獅子舞	R2、3	小学生を中心とした阿久津町にある獅子舞	新型コロナ感染防止のため
67	南八幡地区納涼祭（共催事業）	R2、3	南八幡地区での夏祭り事業	新型コロナ感染防止のため
68	南八幡地区各種団体･機関等新年初顔合わせ会	R2、3	南八幡地区にある各種団体・機関等における初顔合わせ	新型コロナ感染防止のため
69	親子クッキング教室	R2、3	夏休みの小学生を対象に、親子で調理実習を行う	コロナ禍による感染拡大
70	水彩画教室	R2、3	夏休みの小学生を対象に、水彩画のコツを学ぶ	コロナ禍による感染拡大
71	クリスマス会	R2、3	主に小学生以下を対象に、読み聞かせや寸劇を実施	コロナ禍を理由とする講師辞退
72	歩け歩け大会	R2、3	地域づくり活動協議会（環境部会）との共催事業。観音山古墳を目指して歩く。	コロナウイルス感染拡大防止のため中止
73	大類地区芸術作品展	R2、3	地域づくり活動協議会（文化部会）との共催事業。地域住民、学校、公民館定期利用団体などが作った芸術作品を公民館内の各部屋に展示。	コロナウイルス感染拡大防止のため中止
74	獅子舞伝承会	R2、3	下滝町に伝承される獅子舞の保存・継承活動	指導者と参加者にコロナの重篤化を受けやすいシニア世代や、ワクチン接種をしていない子ども世代がいたため、指導者側の判断により中止
75	滝川地区バドミントン大会	R2、3	滝川地区在住者を対象とするバドミントン大会	共催先である地域づくり活動協議会の判断により中止（４年度から再開）
76	新町公民館利用団体作品展	R2、3	公民館サークルによる作品展示	幾つかの参加定期利用団体より不参加の打診もあり、また来館者には高齢者が多く、参加定期利用団体との全体協議により中止。
77	心豊かな地域づくりのための懇談会	R2、3	懇談会	コロナウイルスまん延防止のため
78	だるまの里・三世代交流町民大運動会	R2、3	豊岡地区の運動会	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点により、開催中止
79	南公民館 おはなしの会	R2~4	月１回第２週の水曜日に公民館図書室で実施してきた。	コロナ前から児童育成クラブの小学生の参加が主となっており、一般参加はわずかだった。令和5年から児童クラブの1年生を対象に再開している。
80	鎌倉街道武者行列に関連する歴史講演	R2~4	武者行列を実施するため、武者行列と鎌倉街道について学び、参加促進と城南地区の地域づくり推進を図るため。	コロナのため、城南地区で実施の鎌倉街道武者行列が中止となったため。

No.	事業名	年度	内　容	中止又は未実施の理由
81	城東公民館作品展	R2~4	公民館利用団体の作品展示（年１回２日間）	コロナウイルスまん延による
82	文化祭(作品展・芸能祭)	R2~4	利用団体による、作品展示や活動発表	団体活動休止により出品団体の減少および感染症拡大防止のため。今後は開催しない予定。
83	おはなしのへやクリスマス会	R2~4	読み聞かせボランティア「おはなしのへや」と共催し、会員による人形劇や紙芝居などで未就学児や児童に公民館事業広め利用促進を図る。	１００人前後の多くの来場者が見込まれ、客席が密になること及び会員の年齢が高いため感染リスクを考慮した。
84	秋の夕べのコンサート	R2~4	演奏者５人によるジャズコンサート	演奏者に高齢者がおり、感染症が心配との申出によるため
85	塚沢の歴史を探る	R2~4	塚沢かるたの深読み解説、地区内史跡巡り	新型コロナウイルス感染拡大防止のため。
86	中居長寿セミナー	R2~4	ご長寿（主に長寿会会員）向けに役立つ情報を提供。	多人数の接触によるコロナ感染拡大の恐れから、中居地区長寿会連合会との話し合いで中止とした。中居公民館の特色のある事業の一角であり、例年、関連事業として９事業行ってきた。よって、３年間で 27 事業を中止したことになる。
87	クリスマス会	R2~4	図書読みかたりボランティアによるクリスマス会	感染症拡大の危険性を考慮
88	榛名文化祭	R2~4	演奏・合唱・掲示	事業の出演者が多数おり、さらにたくさんの観客が見込まれるため感染症予防が困難と判断した。
89	いきいきサロン出前講座	R2~4	高齢者を対象とした体操	コロナ感染拡大の防止
90	クリスマス会	R2~4	図書ボランティアによるクリスマス会	コロナ感染拡大の防止
91	親子パン教室	R2~4	親子でパン作りをとおして食育の大切さを学ぶ	感染防止のため中止とした。
92	乗附校区三世代ふれあいソフトバレーボール大会	R2~4	乗附小校区住民の世代間交流	感染防止のため中止とした。
93	乗附校区三世代ふれあい大運動会	R2~4	乗附小校区住民の世代間交流	感染防止のため中止とした。
94	乗附校区芸能祭	R2~4	乗附小校区住民の世代間交流の場と日頃の成果の発表の場	感染防止のため中止とした。
95	ふれあい子育てサロン	R2~4	地域の子育て世代の交流の場と育児相談の場	感染防止のため中止とした
96	寿研究科（調理実習）	R2~4	調理実習	調理実習室のある吉井保健センターにおいて、試食を伴う調理実習は実施しなかった。
97	大類校区社会体育運動会	R2~4	地域づくり活動協議会（運動部会）との共催事業。各町内対抗の運動会。	コロナウイルス感染拡大防止のため中止
98	もちつき大会	R2~4	地域づくり活動協議会（古里部会）との共催事業。小学生を対象にもちつき大会を実施。	コロナウイルス感染拡大防止のため中止
99	滝川子どもフェスティバル	R2~4	滝川地域づくり活動協議会との共催で、地域の子どものためのスタンプラリーゲーム。	実績から来場者数が多数になることが予測され、会場内の密集・密接が避けられないことから地域づくり活動協議会の判断により中止。
100	ふれあいフェスティバル	R2~4	地域づくり活動協議会との共催事業	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため

No.	事業名	年度	内　容	中止又は未実施の理由
101	滝川ふれあいフェスティバル	R2~4	滝川地域づくり活動協議会との共催で、公民館サークル・地域団体・個人による活動発表とスタンプラリーゲーム、放水体験等。	実績から会場内の混雑が予想されるため、感染症拡大防止の観点から地域づくり活動協議会の判断により中止。
102	京ケ島地区大運動会	R2~4	地域づくり活動協議会との共催、京ケ島地区の住民が参加する運動会	実施団体の中止決定による。
103	しんまち春のコンサート	R2~4	生涯学習推進員との共催事業。生涯学習委員全員で楽器の演奏や歌を歌う。	参加者が高齢者でもあり、発声を伴うので中止
104	地域づくり活動協議会研修旅行	R2~4	地域づくり活動協議会との共催事業	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため
105	国府公民館夏祭り	R2~4	定期利用団体の発表会やイベントコーナーを設置した地域おこしや世代間交流	人が密集してしまうので、感染対策を万全にしたとしても感染リスクが高いと判断したため
106	金古南足門公民館秋のフェスティバル	R2~4	作品展示・ステージ発表・炊き出し	不特定多数の参加者が集まることで、感染症のリスクが高まると判断した。
107	図書室クリスマスバージョン	R2~5	地域づくり活動協議会と共催し、図書ボランティアが中心となり開催するクリスマス会。	小学生以下対象の事業で、また、図書ボランティアにはコロナの重篤化を受けやすいシニア世代もいるため。
108	南公民館　芸能祭	R2~5	地域づくり活動協議会と共催し、公民館サークルによる展示や活動の披露	コロナ前から出演者、出品者の高齢化や当日の参加者の減少により、休止が検討されてきており、コロナ禍以降、休止のままになっている。
109	図書読み聞かせ	R2~5	毎週水曜日の午後、図書室で子どもとその保護者を対象に読み聞かせボランティアが読み聞かせを行う。	コロナの流行により利用者数が減少したこと及び感染リスクを考慮した。
110	北カフェ	R2~5	地域住民が自由に集まってお茶を飲んだり、卓球をしたりして交流する場を提供するもの。	高齢者が多く集まって飲食も伴うので感染の危険があるため
111	子どもチャレンジ料理教室	R2~5	毎回調理と食事を行い児童に対する食育を行うもの。	長年講師を務めてきた食生活改善推進員の活動が中止となったことで公民館事業への協力も得られなくなったから。会員の離脱等により令和５年度をもって佐野地区食生活改善推進員は解散することになった。
112	矢中八木節踊り夏期講習会	R2~5	地域の伝統芸能である八木節踊りの講習会	新型コロナウイルス感染症拡大により。会員の高齢化により現在は解散。
113	矢中太鼓夏期講習会	R2~5	地域の伝統芸能である八木節踊りの講習会	新型コロナウイルス感染症拡大により
114	歌のまち矢中合唱活動	R2~5	合唱活動	新型コロナウイルス感染症拡大により。現在は公民館定期利用サークルとして活動。
115	中川小児童との獅子舞交流会	R2~5	獅子舞保存会の指導により獅子舞・太鼓・笛を習い、地元神社の例大祭で奉納・披露。小学校でも練習の成果を全児童の前で披露する。	新型コロナ感染ウィルス拡大防止のため中止。
116	下里見公民館音楽会	R2~5	講師による演奏やサークルの発表	ホールの定員制限や感染症予防のため。
117	南八幡地区芸能祭（共催事業）	R2~5	南八幡地区住民による芸能発表会	新型コロナ感染防止のため
118	寿研究科（館外研修）	R2~5	館外研修	毎年行っていた館外研修をバスの車内で密になることから感染のリスクを考え実施しなかった。

No.	事業名	年度	内　容	中止又は未実施の理由
119	井野川・染谷川ボランティア清掃	R2~5	井野川清掃ボランティア（中尾中学校・区長会・環境保健委員中川支部・中川公民館）川上・川中・川下の３班に分かれて２時間程度のボランティア清掃を行う。	新型コロナウイルス感染症のため。これからは生徒自らが地域の行事に主体的に参加する。
120	自分発見リフレッシュ研究科	R2~5	一般的な調理実習	調理室を持つ施設(吉井保健センター)の意向もあり、試食を伴うような調理実習は実施しなかった。
121	自分発見リフレッシュ研究科	R2~5	館外研修	毎年バスを利用した館外研修を行っていたが、どうしても車内の密や換気に不安が残った。
122	水鉄砲で遊ぼう	R2~5	地域団体との共催で、竹で水鉄砲を自作して遊ぶ	コロナ禍を理由とする共催元の中止決定。4～5 年度については、コロナ禍を理由に中止が続き、協力者の高齢化や多忙化を理由に協力を得にくくなり未実施。
123	岩鼻地区芸能文化祭	R2~5	地域団体との共催による芸能発表、作品展示	コロナ禍を理由とする共催元の中止決定。5 年度については、コロナ禍を理由に中止が続き、関係者の高齢化や出演団体などの解散に開催が困難となり未実施
124	大類地区芸能祭	R2~5	地域づくり活動協議会（文化部会）との共催事業。地域住民と公民館定期利用団体の参加と協力により、地域の伝統芸能能、各町内の芸能文化活動、公民館定期利用団体の活動などの成果についての披露。	コロナウイルス感染拡大防止のため中止
125	京ケ島地区芸能祭	R2~5	地域づくり活動協議会との共催、京ケ島地区の住民が参加する芸能祭	実施団体の中止決定による。
126	七夕まつりを楽しもう	R2~5	生涯学習推進員との共催で流しそうめん等	飲食を伴うため中止
127	夏休みワンパク探検隊「東夏まつり」	R3	大学生が運営する東公民館まつりを通じ、学生・児童が交流し、共に成長して行くもの。主にスポーツ競技を実施。	毎年１５０人以上の参加があることから、児童のコロナ罹患を避けるために中止とした。
128	人権講座「コロナいじめを無くそう」	R3	コロナ感染者に対するいじめについて、児童・大人が一緒に考えながら感染した人は悪くないという正しい理解をし、自分の言葉や行動を見直す。	コロナ感染者が増加傾向にあったため
129	夏休みワンパク探検隊「紙コップクラッカー」	R3	毎年、夏休みに実施している大学生による小学生向け工作講座	大学の地域連携センターから大学生の派遣を控えたいという要望があった。
130	古典文学講座「竹取物語」	R3	古典文学「竹取物語」を読み解く	講師の体調不良及び感染症拡大防止のため
131	初めての篆刻教室	R3	篆刻を制作する	講師から、感染症が心配との申出によるため
132	オンラインリモート会議講座	R3	Zoom の基本操作を学ぶ。リモート会議を開催する。	新型コロナウイルス感染の拡大により、緊急事態宣言が発令されていることから、講師より中止の依頼があった。
133	キッズワーク「ぼくたちわたしたちの未来スクール（youtuber 編）」	R3	Youtuber の仕事について、学習と技術の習得	新型コロナウイルスの感染拡大により、蔓延防止法の発令及び群馬県の警戒度がレベル４になったため、講師より中止の依頼があった。
134	バレンタインチョコバナナケーキづくり教室	R3	北部小児童を対象にチョコバナナケーキをつくる	講師からの申し出により中止

No.	事業名	年度	内　容	中止又は未実施の理由
135	シニア向けスマホ教室	R3	スマホの基本的な使いかたやスマホ機能を学ぶ	新型コロナウイルス感染の拡大により、緊急事態宣言が発令されていることから、講師より中止の依頼があった。
136	「妄想旅行」（東北編）	R3	旅行知識の「しゃべり場」	東北地方のコロナ感染者の割合が他の地域より少なかったので、東北地方限定の知識を披露する場として「東北編」にしたが、コロナ感染者の全国的な拡大の影響で中止とした。
137	名曲を楽しもう～トランペットの調べ～	R3	生涯学習推進員、中居地域づくり活動協議会、公民館の共催。トランペットとピアノによるコンサート	秋の開催で企画し、演奏者にも依頼していたが、全国的なコロナ感染の拡大により、町内会などの関係者とも相談し、中止とした。
138	北部の新春落語	R3	地域住民を対象とした人権講座	講師からの申し出により中止
139	ベビーマッサージ&ベビースキンケア～若葉会	R3	コミュニケーションを大切にしたベビーマッサージおよびベビースキンケア	感染拡大防止のため。
140	命を考える～太平洋戦争の特攻隊と戦争体験者談	R3	太平洋戦争についての紙芝居と講話	まん延防止重点措置となり、講師より中止の申し入れがあったため。
141	親と子のふれあい教室	R3	手遊び、読み聞かせ、親子リズム、子育て講話など	感染拡大防止のため。
142	親子ふれあい教室	R3	０歳～未就園児とその保護者向けの手遊び、読み聞かせ、親子リズム、おもちゃ遊びなど	本市がまん延防止等重点措置の適用対象となったため、感染症拡大防止の観点から開催を中止とした。
143	豊岡地区作品展示会	R3	地域の方やサークル等の公民館利用者が制作した作品の発表及び交流の場として作品展示会を開催する	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点により、開催中止となった。
144	倉渕の将棋大会	R3	地域交流のための将棋。	将棋は相手との距離が保つことが難しく、時間も長くなることから感染のリスクが高くなることから中止した。
145	春の寄せ植え教室	R3	季節の自然素材を使って寄せ植えを学ぶ	新型コロナウイルス感染症がまん延してしたため参加者の感染と安全を考慮して中止した。
146	ノルディックウォーキング教室	R3	体力の維持と健康増進を図る	まん延防止等重点措置が発令されていた時期であるので参加者の安全を考慮して中止した。
147	夏の子ども陶芸教室	R3	陶芸の基本を学びもの作りの大切さを養う。	まん延防止等重点措置が発令されていた時期であるので参加者の安全を考慮して中止した。
148	赤十字講習会	R3	フレイル予防・感染症予防を学ぶ。	コロナウイルス感染症緊急事態宣言が発令されたため、参加者の安全を考慮して中止した。
149	道祖神の里めぐり	R3	地域交流のため、倉渕地域の道祖神などの文化財を回る。	内容を検討し縮小開催として計画したが、中学生解説ボランティアの関係もあり、感染のリスクが高くなることから中止した。
150	人権教育推進講座	R3	ハンドベルによる演奏と地域間交流。	まん延防止等の措置が発令されていたため、参加者の安全面を考慮し中止した。
151	新春下里見寄席	R3	落語の鑑賞	講師が濃厚接触者となったため。
152	クリスマス会	R3	幼稚園児・小学生を中心としたクリスマス会	新型コロナ感染防止のため
153	夏休み子どもロボット・プログラミング教室	R3	プログラミングの必要性・基本を学ぶ。ノートパソコンでプログラミングを作成してロボットを動かす。	講師から体調不良による辞退の申し出があったため

No.	事業名	年度	内　容	中止又は未実施の理由
154	倉賀野公民館輪投げ大会	R3	倉賀野小学校児童及び倉賀野町在住の方を対象とした輪投げ大会を実施して、参加者同士の交流と親睦を図るもの。	感染拡大防止の観点から中止した。
155	旅する音楽～ヴィオラとピアノの調べ～	R3	生涯学習推進員との共催事業。市内在住音楽家によるヴィオラとピアノのコンサート。	感染症流行拡大を懸念する推進員からの中止要請を受けて中止。(令和４年度に同出演者･内容で事業を実施)
156	なわとびを楽しもう	R3	小学生を対象に、なわとびのコツを楽しんで学ぶ	コロナ禍による感染拡大
157	日本酒講座	R3	群馬の地酒や日本酒づくりについて学ぶ	講師の意向により中止
158	キラキラ☆ケース作り	R3	子ども支援事業	群馬県が緊急事態宣言の対象地域となったため
159	スノードーム作り	R3	子ども支援事業	小学校で学年閉鎖となったため
160	堤ヶ岡飛行場の人々のくらし	R3	人権教育推進事業（社会教育課）	講師からの申し出による
161	西地区文化祭「芸能発表会」	R3､4	地域づくり活動協議会との共催で西地区住民による歌や踊り楽器演奏など多くの出演者並びに観客が一体になり盛り上がり地域の活性化を図る。	コロナ過で感染者が増える中、感染対策だけでは大勢の人が集まるため感染リスクが高いと判断したため。
162	しめ縄づくり教室	R3､4	しめ縄についての説明と、実際にしめ縄を作る	新型コロナウイルス感染拡大防止のため。
163	読み聞かせ夏祭り	R3､4	読み聞かせ、大型紙芝居、ゲーム	まん延防止等重点措置が発令され、多数の人が集まる事業の開催は感染症対策の徹底ができないため。
164	読み聞かせクリスマス会	R3､4	パネルシアター、大型紙芝居、ハーモニカ演奏、ゲーム	まん延防止等重点措置が発令され、多数の人が集まる事業の開催は感染症対策の徹底ができないため。
165	公民館で遊ぼう	R3､4	ボランティア団体の計画による吉井町内小学生の遊びや体験	それまでは年に５回程度実施していたが、講師の意向により感染のリスクを考え実施しなかった。
166	県立歴史博物館、近代美術館などの見学研修	R3､4	継続事業：地域との共催による、区域内の施設の見学研修	コロナ禍を理由とする共催元の中止決定
167	獅子舞教室	R3､4	地域伝統の獅子舞を継承し、伝統芸能の知識を高める	高齢者が多いため活動を自粛していたため。
168	大学生とドッジボールで遊ぼう	R3､5	北部小学童と高崎経済大学ボランティアサークルＡＣＴとの共催事業	両年度とも学童からの申し出により中止
169	南八幡公民館文化祭	R3~5	公民館定期利用団体・地域住民による作品展示会	新型コロナ感染防止及び出品者数の減少のため
170	味噌づくり教室	R3~5	区域内の農協の施設・指導で味噌をつくる	コロナ禍を理由とする協力先からの中止要請。５年度は、コロナ禍を理由に中止が続き、協力先の多忙化などの理由から協力を得にくくなり未実施。
171	子どものための音楽会	R3~5	滝川保育所を会場に園児を対象にしたコンサート	会場となる保育所で感染防止対策として来園者制限を行っていたため、保育所側の意向を受けて中止。
172	楽しくシェイプアップ！親子運動教室	R4	親子での運動教室	先生がコロナに感染したため。
173	中島知久平邸地域交流センター見学会	R4	生涯学習推進員共催。旧尾島町出身の飛行機王、中島知久平が、両親のために新築した邸宅を見学し、地域交流センター（資料館）で学習を行う。	県感染症警戒レベル２となり、バス（福祉バス）の利用ができなくなったため。

No.	事業名	年度	内　容	中止又は未実施の理由
174	ビスケットブラウニーづくり教室	R4	北部小児童を対象にビスケットブラウニーをつくる	講師からの申し出により中止
175	うごキッズ教室	R4	小学生向けの運動教室	講師が陽性となったため（全４回のうち２回中止）。
176	日本銀行って何してるの？	R4	日本銀行の役割やしくみを学ぶ	講師の意向により中止

（２）コロナ禍を契機に新たに始めた事業や、コロナ禍に対応するため新たに実施方法を工夫しながら取り組んだ事業などがあれば記入してください。

No.	事業名	年度	内　容	開催した目的	開催時の工夫	参加人数
1	誰でも描ける絵てがみ教室	R2	絵てがみの書き方を学ぶ。	コロナ禍でも、しゃべらず、座って参加できるものがよいと思った。また、家庭でできる趣味になるため。	密にならないよう間隔をとる。	25 人
2	エコクラフトバッグづくり教室	R2	エコクラフトテープを使って、エコバックを作る。	コロナ禍でも、しゃべらず、座って参加できるものがよいと思った。また、家庭でできる趣味になるため。	密にならないよう間隔をとる。	26 人
3	手づくりまんじゅう教室	R2	田舎まんじゅうを作る。	昔なつかしい田舎まんじゅうを作り、参加者同士の交流を深める。	出来たまんじゅうは試食せず持ち帰りとした。	14 人
4	地域ぐるみの防災講座	R2	新型コロナウイルスに対応した避難所開設の方法を学ぶ	毎年行っているもので令和２年度は新型コロナ対策を学習。	9 月にこの講座を行って、11 月に初めての校区自主防災訓練を行い、３月に振り返りとし、課題等の洗い出しを行った。	20 人
5	高齢者を守る！感染症対策講座	R2	新型コロナウイルスを含む感染症対策について学ぶ	地域での感染症対策を促進するため	来館時検温、健康チェック、マスク着用、部屋の換気、座席のソーシャルディスタンスの確保	12 人
6	久留馬のくるっとまるっとチャンネル	R2	SNS を活用した地域づくり	コロナ禍でも継続できる交流を目的として開催	SNS を用いて非対面非接触で感染拡大に配慮し開催	SNS での視聴のため不明
7	城山校区発表会	R2	地域活動報告、舞踊、朗読、沖縄三線、カラオケ	公民館利用団体等が日頃の活動の成果を披露する。	感染対策として、手指消毒、検温、換気、加湿、マスク着用（演者、観客）のほか、ステージと観客席をビニールのカーテンで遮断した。	延べ 102 人
8	正しいラジオ体操	R2	正しいラジオ体操を習得する	いつでもどこでも誰でも、そして何といっても１人でもできることから、運動不足解消と健康づくりに役立てることを目的として開催。	マスクの着用を徹底したため、途中何度も休憩をはさみ、水分補給や換気を行なった。	25 人
9	はじめてのウクレレ教室(全５回)	R2	初心者のためのウクレレ教室	「おうち時間」を活用することを目的に開催。生涯にわたり続けられる趣味のひとつとして、充実した人生を送るための一助とする。	ひとりずつ離れて座るようにした。	15 人（延べ 71 人）

No.	事業名	年度	内　容	開催した目的	開催時の工夫	参加人数
10	春の子どもパン作り教室	R2	イタリアの食事パン「フォカッチャ」づくり	春休みの子どもを対象に開催した。	出来たパンは試食せず持ち帰りとした。	7 人
11	今こそ学ぼう！閉口ハミング	R2	声楽家の視点に基づく「ハミング」による歌唱トレーニング。	通常の発声による歌唱方法よりも飛沫抑制が期待できる「ハミング」の歌唱法を用いたボイストレーニングで、コロナ禍によるストレスの軽減と喉の機能維持、歌唱力の向上を図ることを目的に開催。	手指消毒、検温、換気、マスク着用、距離を開けた椅子の配置	42 人
12	ふれあいまつり	R2、3	公民館定期利用サークルの作品展	公民館定期利用サークルの作品を展示する	作品展と同時に催していた発表会(1 日のみ)を省略して開催	R2 年度延べ 100 人、3 年度延べ 69 人
13	金古南小学校児童作文コンテスト表彰式	R2~4	最優秀作品賞及び優秀作品賞の表彰	作文を通して地域への愛着を育み、優秀作品を公民館だよりで回覧することにより、より良い町づくりと住民交流に活用するため	不特定多数の住民や審査員が集まるため、事業自体を中止するのではなく、感染リスクの高い表彰式のみを中止とし、表彰状と記念品を学校に直接配布して対象児童へ交付してもらった。	R2 年度 24 人、3 年度 19 人、4 年度 156 人
14	子ども支援事業	R2~4	子どもたちに遊べる場所を提供する	仲間づくりや思いやりの心を養ってもらう	健康状態報告書の提出、受け入れ時間の短縮、利用人数・使用遊具の制限などコロナの状況に応じて、その都度、変更しながら事業を行っていた。	不特定
15	津軽三味線コンサート	R2~4	講師２人及びお弟子さんによる津軽三味線の演奏	生涯学習推進員との共催によるため	午前・午後と開催し、各回の定員を減らして実施	R2 年度 24 人、3 年度 42 人、4 年度 43 人
16	子どもクッキング	R2~4	創作料理の調理	創造力を養う	作った物は持ち帰って食べてもらうことにした。	16 人
17	マリンバコンサート	R2~5	講師２人によるマリンバの演奏	民児協・町内各サロンとの共催によるため	午前・午後と開催し、各回の定員を減らして実施	R2 年度 30 人、3 年度 24 人、4 年度62 人、5 年度 43 人
18	ふれあいコンサート（令和４年度より「ヴァイオリンとピアノのふれあいコンサート」へ名称変更）	R2~5	講師２人によるヴァイオリンとピアノの演奏	民児協・町内各サロンとの共催によるため	午前・午後と開催し、各回の定員を減らして実施	R2 年度 40 人、3 年度 44 人、4 年度 58人、5 年度 57 人

No.	事業名	年度	内　容	開催した目的	開催時の工夫	参加人数
19	お楽しみ「クリスマス会」	R2~5	２年度はクリスマスメッセージ、イラストの寄せ書きなど。３年度は大型絵本の読聞かせ、手遊びなど。４年度は手袋ダンス、大型絵本の読み聞かせ、手遊びなど。５年度は前年同と大道芸、ブラックパネルシアターなど。	子どもや保護者達に楽しい思い出つくりや、同じ世代間の交流を図る	２年度は中止も視野に入れて打合せを重ね、最終的には公民館玄関先でのプレゼント配布をメインに最低限の滞在時間で行った。３、４年度はもう少しクリスマスらしいことをしてあげたいという気持ちで打合せを重ね、人数制限や時間も短く設定し３回に分けることで、公民館内でのクリスマス会を復活させることができた。５年度は前年度と同じ工夫を実施しつつ、回数は２回に変更し、１回あたりの定員を増やすことで全体の参加人数が減らないようにした。	R2 年度 150 人、3 年度 132 人、4 年度 136 人、5 年度 158 人
20	手づくりソーセージ教室	R3	ソーセージづくりの実習	食肉や添加物に関する知識を深め、地域の食材や食生活への意識を高める機会とする。また、参加者同士の交流を深めてもらうことを目的とする	３密を避けるため通常の定員 16 人を８人に減員	8 人
21	太極拳体験教室	R3	初心者を対象として太極拳の基礎を学ぶ。	参加者からの要望があったため	教室の開催時期変更と換気などの予防の徹底	延べ 24 人
22	中華まんづくり教室	R3	肉まんとあんまんづくりの実習	自分で食べるものを自分で作る楽しさを感じてもらうこと、また、参加者同士の交流を深めてもらうことを目的とする。	３密を避けるため通常の定員 16 人を 10 人に減員	10 人
23	ベビーマッサージ&ベビースキンケア～紅葉会～	R3	コミュニケーションを大切にしたベビーマッサージおよびベビースキンケア	ベビーマッサージにより親子のふれあいや絆を深めて愛情と信頼関係を育てる。あかちゃんの肌を理解し、正しいスキンケアを学ぶ。子育てするママ同士が育児についての悩みなどを話し合い、その解決方法を考え交流を深める。	Web 会議ツール「Zoom」での参加もできるようにした。	延べ 52 人
24	メスティン料理教室	R3	メスティンを使った料理教室	避難時の食事における感染症拡大防止として、今までの大鍋料理から個別食にすることにより感染リスクを下げるとともに、メスティンで調理することで温かい食事が楽しめる。	災害による避難時を想定し、缶詰を活用したメスティンのメニューのほか、お湯とビニール袋で調理ができるメニューを紹介した。	4 人
25	Zoom 体験教室	R3	Zoom の使い方を学ぶ講座	コロナ禍で Zoom を使ったコミュニケーションがクローズアップされたため	講師に Zoom が入っているタブレットを用意してもらい、操作説明に専念できるよう工夫した。	20 人

No.	事業名	年度	内　容	開催した目的	開催時の工夫	参加人数
26	うたと音楽の力	R3	どこからでも参加できるオンラインの強みを活かし、童謡・唱歌・歌謡曲をピアノの生演奏で楽しく歌ったり、踊ったりする。	その地域にゆかりのある音楽等を用い、地域間交流及び世代間交流を深める。	箕郷公民館・久留馬公民館・県立榛名高校の３カ所を Zoom で結び、感染拡大防止対策をとった。	15 人
27	ポリ袋クッキング	R3	ポリ袋を使った調理法を学ぶ（カレーライス・ひじき煮・蒸しパン）	時短テクニックとして、また健康維持や非常時対策に役立てることを目的に開催。	調理台の使用人数を制限するため同一の内容を２日にわけて実施し、試食をせず持ち帰ることとした。（衛生上の観点から本来は持ち帰りを控えるべきだが、十分に注意をするよう説明をした上で持ち帰ってもらった。）講座後は会話を極力控えるため、ホワイトボードを使って感想を発表した。	19 人
28	ハミングトレーニングと「第九」	R3	ベートーヴェン作曲「交響曲第９番」第４楽章「歓喜の歌」を座学とハミング唱法による実践の双方向で学ぶ。	コロナ禍でもできる歌唱方法として注目される「ハミング」で歌唱力、健康維持向上を図ることと、作曲者と作品について理解を深めることを目的とする。	手指消毒、検温、換気、マスク着用、距離を開けた椅子の配置	52 人
29	I am OK,you are OK!こころとカラダの軸を育むキッズヨガ	R3､4	ポージングではなく、遊びやゲームを取り入れた身体を動かす楽しさを主眼に置くキッズヨガに取り組むもの	コロナ禍の子どもの運動不足の解消や免疫力の向上が社会課題の一つである。自分の体を使う感覚や気持ちを知る練習などキッズヨガをとおして子どもの健康な体づくりに寄与することを目的に開催。	公民館での１時間が子どもにとっての安心の居場所になるよう、その日の子どもの気分に寄り添うことを講師に具現化していただいた。	延べ 165 人
30	いまを楽しんで♪自然な笑顔あふれるおやこじかん	R3~5	手遊びを基本としながら親子でふれあう遊びを楽しみ、親子のコミュニケーションの醸成を図るもの	コロナ禍での自宅滞在時間が長くなる中で、親自身が育児へのゆとりが無くなるケースが散見された。これを受けて子どもとのコミュニケーション力を育み、地域社会への参加の一助として当公民館の利用を啓発することが目的に開催。	NPO 法人と連携して、きっちりとした子育て支援講座ではなく、あえてゆるく、ゆったり過ごしてもらう時間作りと学習プログラム作りを行った。	延べ 138 人
31	音レク広場	R3~5	Zoom を活用した音楽レクリエーション講座。現在も「うたと音楽の力」という講座名で定期的に開催中。	コロナ禍でも継続できる交流を目的として開催	SNS を用いて各所に居る集団同士が非対面非接触で交流できるよう工夫	R3 年度 48 人
32	ちょこっと♪クリスマス会	R3~5	クリスマス会（読み聞かせ、ビンゴゲーム等）	図書ボランティア及び大学生と共催することにより、少年少女の相互交流を深め、安心安全な地域づくりと地域での子育て支援も目的とした教室。	密をさけるため、会場を公民館と学童クラブに分散（オンラインで繋ぐ）して実施。Zoom の参加も別に募った。	60 人(公民館 19 人、学童 36 人、Zoom5 人)

No.	事業名	年度	内　容	開催した目的	開催時の工夫	参加人数
33	手づくりパン教室	R4	天然酵母を使ったパン作り	地域づくり活動協議会及び生涯学習推進員との共催事業	出来たパンは試食せず持ち帰りとした。	11 人
34	ベビーマッサージ	R4	コミュニケーションを大切にしたベビーマッサージ及びベビースキンケア	親子のスキンシップを図るベビーマッサージを行うことにより、親子のふれあいや絆を深めて愛情と信頼関係を育てる。	公民館の他にコロナ感染症予防対策として Zoom を用いた	9 人 (Zoom3 人)
35	太陽の黒点と昼の星をみよう	R4	太陽の黒点や昼に見える星の観察を行う	参加者からの要望があったため	教室の開催時期変更と感染症予防の徹底	18 人
36	はじめての太極拳教室	R4	太極拳の定期利用団体の協力で、太極拳に触れる	利用団体の解散が続いたことと、既存団体への参加は敷居が高いとの意見があったことから、契機づくりを目的とした。	講座参加者と利用団体会員で分かれることがないよう雰囲気醸成に留意した。	20 人
37	道祖神の里めぐり	R4	地域の道祖神などを中学生解説ボランティアと回る	地域や参加者から要望があったため	開催内容の変更及び飲食提供の中止と予防の徹底	85 人
38	みんなで作る音楽祭	R4	演奏・合唱	サークル活動の発表	会場(ホール)を集客数の多いホールに変更	286 人
39	安中総合学園生徒が教える！花の寄せ植え講座	R4	初夏に植え付けを行う花を、美しく寄せ植えする技術を学ぶ。	初夏に咲かせる複数の花を、１つの鉢に美しく寄せ植えする技術を学び、花に興味を持つ参加者同士が楽しく意見交換を行い、交流を図ることを目的とする。	安中総合学園の生徒は授業の中で花を育てており、祭りや行事の際に移植し会場の彩りを行っている。コロナ禍で祭り等が中止となる中、生徒の活動の場を設けると共に、本事業の目的を達成することが望めるため開催。	13 人
40	うたと音楽の力	R4	Zoom により３カ所を結んでの音楽レクリエーション	コロナ禍で分断された人々の交流を深める	感染症予防のため、大人数で集まることができないため、オンラインで各会場を結んだ（久留馬公民館で令和３年度に実施しており、新規会場として下里見公民館が参加）。	52 人
41	白銀の世界へようこそ　山岳ガイドに学ぶオンライントレッキング	R4	Zoom を活用した山歩きと環境教育講座	コロナ禍で外出できない方、高齢等で山歩きが出来ない方などのストレス軽減等を目的に開催	Zoom を用いて遠隔地の講師が現場にて指導にすることにより質の高い学習機会の提供と感染拡大に配慮して開催	15 人
42	久留馬ふれあいフェスティバル	R4	地域と公民館利用団体の文化祭	感染拡大防止のルールに対応した地域イベント開催	三密回避のため、映像を各会場に流すことで参加者を分散させながら一体感を維持した。	142 人
43	ふれあいいきいきサロン	R4	Zoom を使ったリモート交流	学校発信と地域の世代間交流を目的	小学校の無料配布のタブレットを利用	217 人
44	カヌー体験教室	R4	吉井地域にある施設を活用したカヌー体験教室	開放的な空間でカヌーを楽しみ、自然に親しむことを目的として開催	受付時に手指の消毒、検温･体調等の自己申告等を行い、陸上での体験学習中はマスク着用を徹底した。	10 人

No.	事業名	年度	内　容	開催した目的	開催時の工夫	参加人数
45	初めて奏でる聖なる響き！「トーンチャイム」	R4	トーンチャイムの演奏体験	演奏者奏者全員が協力して一つの旋律をつくる楽器であることから、会話に頼らない形式で交流を図り、生きがいづくりや健康づくりに繋げることを目的とした。	手指消毒、換気、ソーシャルディスタンスの確保	29 人
46	名曲を楽しもう～バイオリンの調べ～	R4､5	例年の生涯学習推進員の企画によるコンサート。中居地域づくり活動協議会、公民館共催事業。バイオリン奏者２人によるコンサート	地域の皆様に、音楽を通じて日常の安寧を取り戻してもらおうと企画。	演奏を依頼する楽器の種類を毎年変え、群響の演奏者を招いての企画だったが、令和４年度からは、中居地区在住の群響のバイオリン奏者に出演をお願いした。	R4 年度 31 人、5 年度 62 人
47	自分に一生けんめいになろう！ココロとからだで踊るＫｉｄｓ Ｄａｎｃｅ！！	R4､5	音楽に合わせて手や体を使った遊びやダンスの振り付けなどを体験するもの	コロナ禍において子どもの体力の向上、そして心の健康づくりが社会課題の一つである。自分の心で身体を動かす感覚を身に着け、自分のために一生懸命なることで自己肯定感や身体能力の向上など子どもの心身ともに健康な体づくりに寄与することが目的に開催。	１回あたり１時間だが、講師には全員で一つのものを作り上げるのではなく、自分のことだけに一生懸命になることを意識した指導を行っていただいた。	延べ 62 人
48	矢中音楽サロン	R4､5	音楽鑑賞や健康体操、仲間と会話やゲームを楽しむ	コロナ禍により外出を自粛している高齢者の引きこもりを防ぎ、仲間と会話をすることで脳を活性化し認知症予防並びに体を動かすことで、自宅で過ごすよりも身体活動量が増え介護予防につながることを目的とした	地域人材として、矢中地区民生委員と安心センターの職員を講師に迎え、開催場所を町内公民館（２箇所）、市公民館の（３箇所）として開催	R4 年度 46 人、5 年度 55 人
49	ミニギャラリー	R5	公民館利用団体の作品展示	作品展準備作業の軽減と観覧人数の増加を目的とする	展示団体の都合に合わせ１か月以上の展示を玄関付近で行う	日々の公民館利用者
50	はじめてのヨガ教室	R5	ヨガの定期利用団体の協力で、ヨガに触れる	利用団体の解散が続いたことと、既存団体への参加は敷居が高いとの意見があったことから、契機づくりを目的とした。	講座参加者と利用団体会員で分かれることがないよう雰囲気醸成に留意した	12 人
51	☆ふるさと再発見☆ファミリーツアー	R5	地域づくり活動協議会（古里部会）との共催事業（新規事業）。歴史民俗資料館に展示してある昭和時代の茶の間・駄菓子屋・木造教室・お風呂屋さんなどを古里部会の役員を案内役として７人ぐらいのグループで見学する。	ふるさと大類に思いをはせ、地域の人々とのつながりや世代間交流に役立てる。	コロナ禍で食べ物を扱うことの自粛、また生活様式の激変のなか、今までの行事内容にとらわれない楽しくて地域のつながりを感じる内容として昭和時代にあった家族団らんの生活様式や道具など、歴史民俗資料館の展示品を見ながら、世代を超えてみんなで古里を体感するもの	62 人

（３）上記の経験をとおして、今後、公民館事業を企画・実施する中で、特に重視したい視点（内容・実施目的など）があれば記入してください。

・コロナ禍が、公民館が直面していた主たる利用世代の高齢化による利用休止に決定的な影響を与えた。新たな世代の利用は進んでいない。
・主たる利用世代の利用をできるだけ長く続けられるようにすること。
・開催日時（平日夜間、週休日）を弾力的に設定すること。
・住民の公民館へのニーズがあるかどうか、「今」「未来」を考えること。
・コロナ禍のような状態が、これからも起こりうる可能性があるため、公民館は、休館しないで地域のよりどころとなる工夫・企画に取り組む。
・調理系の事業は、出来た後の試食も楽しみだと思うので今後は取り入れて参加者の交流が図れるようにしたい。
・Zoom の参加が少なかったが、今後急速に加速するデジタル社会において、デジタルリテラシーの向上を目指した事業を企画しなければならい。
・地域の行事なども中止になり地域の人間関係も希薄になってしまい、寂しく感じている方も多いようなので、また地域のきずなを作れるような講座を開催したい。
・地域団体(民児協等)や生涯学習推進員との共催事業は、開館から継続している事業で、地域住民も楽しみにしていることから、今後も継続して実施していきたい。
・コロナ禍という世界的事象が、地域の皆さんが公民館で関わり合う大切さを再確認させた。地域の皆さんの交流が圧倒的に減少または中止になった時期を経て、今まで以上に拠り所としての公民館の役割が高まっており、その具体的取り組みや地域への支援が必要だと考える。特に佐野校区では家庭、学校や職場等以外で子どもや親子、子育て中の保護者が安心して気軽に寄れる・交流できる居場所づくりを意識する必要がある。
・全ての事業において、人と人が距離を取れるような企画、実施を重視している。
・地元あっての地区公民館なので地域に根差した主催事業を計画していきたいと思う。
・地域人材を活用した講座の開催や小学校や学童クラブと連携した講座の開催
・感染症罹患が他の季節に比べると増える冬季は、主催事業を少なめに設定。
・感染症の流行時においては、感染リスクの高い対人接触等を必要とする事業を除き、安易に中止せずに適切な感染対策を行なった上で事業を実施する。
・利用者側の対応が難しい点から、オンライン等を活用した講座は実施できなかったが、配信設備が充実され、利用者側の対応が可能な場合は積極的に活用したい。
・コロナ禍に対応するための実施方法として、どの講座も定員を少なく調整して実施した。
・オンラインでも参加可能な講座において、オンラインでの参加者が会場の盛り上がりに置いていかれてしまうことがあり、対面による参加者同士の交流が大切であることを感じることができた。公民館事業を企画・運営する上で、目的を達成するだけでなく参加者一人一人のつながりを重視していきたい。
・コロナに限らず利用者の感染予防。
・学びを止めないことと費用対効果の塩梅。
・コロナ過では、学びを止めないよう定員割れやむなしと費用対効果を度外視して実施可能な事業に取り組んだ。今後、費用対効果を担保するため、コロナに限らず外的要因に起因する地域住民の参加意欲の低下について、どの程度の低下があるか、館長や主事の推測に頼らざるを得ない。その推測がより的確になるためには、マスメディアのみに頼ることなく、住民意識へのアンテナ、指標となるべき人物など情報源の充実を図り、偏った判断にならないよう注意していきたい。
・お楽しみ「クリスマス会」については、コロナ当初、中心となってくれていた図書ボランティアさんの中でも開催か中止かで意見が真っ二つに割れており、開催派と中止派に分かれていた。公民館としても両方の意見に聞くべきところがあり、何度も打合せを重ねた。すぐ中止にしなかったのは毎年楽しみにしてくれている子どもたちのために、何とかクリスマス会を継続開催したいという図書ボランティアさんの強い思いがあったためで、例年と同じ様式の開催ではないにしろ、実際に開催にこぎつけた時は感慨深いものを感じた。中止することは簡単ではあるが、地域の方のために開催することにも意義はあり、工夫次第で道を拓くこともできるということを感じられる事業となった。

・地域住民同士が、楽しみながら心身の健康に役立てる企画を提案し、幅広い年齢層の参加に繋げて行きたい。
・コロナウイルス感染症が５類に移行したが相変わらず流行が起きているため、換気や適切な手洗いや手指の消毒を臨機応変に対応したい。
・企画や会場の見直し
・オンラインはメリットもあるが、やはり対面による交流でしか生まれないメリットの尊さを改めて感じた。普段、関わることが少ない人同士が公民館事業を通して対面で交わることができるような企画に重点を置いていきたい。
・５類に移行後は感染拡大防止の制限が緩和されたので、今年度はそれまで行いづらかった講座を開催。地域住民がなるべく多く集って参加者同士の一体感がうまれやすい講座と料理系の講座を意識的に多く開催した。
・今後はオンラインを補完的に使い、参加する事への障壁を下げたり、定員で受付出来ない等の参加者の取りこぼしが無いようにしたりしていきたい。
・講座を実施するにあたり、できること、できないこと、社会状況などを鑑みて内容や目的を検討する。
・地域連携の強化と推進を考えている
・今後も色々な感染症がまん延する可能性が考えられるため、その際には単純に事業を中止とするのではなく、リモートも含め対策を講じながら行うことが必要と思われる。
・コロナに限らず、手指消毒と換気と加湿は普遍的な感染対策として継続する。
・新型コロナ感染により公民館事業、地域事業の大半が実施することができなかったが、今後も感染対策を緩めることなく、慎重に状況を見極め、迅速に対応する態勢を構築しておく必要があると考える。
・元気な高齢者が減ってきているように感じており、事業企画の際は、事業の社会的必要性のみならず、参加者が集まるのかを今以上にシビアに重視したいと考える。
・コロナが５類に移行したとはいえ、感染はまだまだ続くので、手指消毒とソーシャルディスタンスの確保を引き続き実施する。
・換気と手指消毒、また参加者同士あるいは講師と参加者のソーシャルディスタンスを確保できる事業内容や定員数の設定を継続する。
・コロナが騒がれなくなったものの、感染症の流行は収束していないため、大勢が集まる事業を行う際は慎重に取り組んでいきたい。
・参加者の健康増進と明朗な精神の育成に力を注ぎたい。
・将来的にオンラインによるリモートでの事業実施などを見据えて、現時点では地域住民に対するデジタル機器に関する事業に力をいれていく。
・出来得る感染対策をしたうえで、事業を実施してきたので、今後も参加者が安心して参加できるような準備をして、公民館事業を開催していきたい。
・コロナ禍とは直接関係ないかもしれないが、利用者（とその予備軍を含め）の声をよく聞いて、事業の企画・運営にあたることの大切さを感じている。後述するように、公民館主催事業からサークル化する好事例を見いだせたことは収穫だった。
・当館では、リモートを活用した事業は実施しなかったが、学びを止めないための手法として有効であることは間違いない。スマートフォンが普及した現在、パソコンを使用せずともスマホで簡単につながることが可能であり、その活用法について検討する価値がある。しかし、サークル等で実際に顔と顔を合わせて活動することは、オンラインでは得られない、満足感と充足感があるように感じられる。対面での集いと学びを基軸としながら、その代替手段を確保することが必要なのではないだろうか。
・事業の継続性を見据えた仕組みづくり
・コロナ禍の渦中では、人と人が集えないことはもちろんのこと、脈々と継承していた伝統や仕組み（組織）が途絶えてしまったり、必要性が疑問視されたりするなどの事例が見られた。そのため事業の意義や継続する必要性を理解して継承していけるような仕組みづくりの必要性は痛感している。また、地域の町内会や育成会なども活動できなかった期間があることで、コロナ禍を脱しても活動が引き継がれなかったり、以前の様子を知る人材がいなかったりなどの課題があったため、改めて地域と行政のつながりを密にし、情報共有しつつ、次世代の育成の必要性を感じた。
・新規利用者（特に現在の利用者層からおおむね１０～２０歳下の年齢層）の開拓
・地域との連携

２　公民館の定期利用団体・利用者について

（１）定期利用団体数の変化を記入してください。※令和５年度は 12 月末現在

地区公民館 44 館合計

年　度	増	減	年度末現在
令和２年度	23 団体	56 団体	1,313 団体
令和３年度	42 団体	105 団体	1,250 団体
令和４年度	39 団体	105 団体	1,184 団体
令和５年度	32 団体	60 団体	1,156 団体

（２）コロナ禍で活動を休止せざるを得ない状況を経験した中で、定期利用団体の課題として見えてきたことがあれば記入してください。

・公民館の青年学級、婦人学級、家庭教育学級、親子講座、高齢者講座など長年、年代に応じて利用してきた世代が高齢者になり、「公民館の利用減少」「自主学習サークル（特に平日日中）の解散・縮小」が顕著になっている。

・近年長期にわたり活動してきた自主学習サークルの活動停止が相次ぎ、あわせていつも講座に参加していた方の受講もなくなっている。

・高齢者が中心となる団体が多く、コロナ感染のため、三密や飛沫感染の影響のため、合唱やダンス等の団体が休止する傾向があった。再開しても人が集まらず解散した団体があった。

・活動を自粛している間に、高齢者が多い団体では体調を崩すなど参加できない人が増え、活動できる人の減少により解散した団体も見受けられた。

・今後も高齢者中心の団体においては、会員の減少により解散する団体が予想される。

・高齢者から構成される団体がほとんどのため、コロナ感染を懸念し活動停止する団体が多くあったが、停止期間が長すぎたためか一度学びを止めてしまうと公民館で活動をしない生活が当たり前になってしまった。そのまま解散する団体も数団体あった。

・既存のサークルに新しく加入する人がほとんどいないうえ、会員の高齢化により退会する人が増え解散してしまう団体が増えてきた。

・休会をきっかけにして、会員の高齢化から、そのまま解散になった団体もあった。

・解散した団体がもう一度活動を復活することは、個々の人の願望はあったとしても、具体的な行動に移すこと極めて困難であること。

・高齢化が進んでいる

・会員の減少により団体の継続困難となっている団体が増えた。

・活動を休止していた団体が、活動を再開したとき、高齢化により団体を束ねる人がいなくなっている。活動を束ねる人がいないため、公民館へ会員から活動日時などの問い合わせが増えた

・もともと会員の高齢化と会員数の減少で活動継続を危ぶまれていたサークルが、コロナによる活動自粛から解散している団体がみられる。

・講師、会員の高齢化

・高齢化による会員減が解散の主な理由だが、コロナ禍による会員の日常活動の低下が要因の一つとして考えられた。なお、高齢化による会員減の理由の一つに利用目的に叶う会場が２階ホールのみで、階段が上がれないためサークルを退会するというものがある。

・コロナ禍での解散を免れても、著しくメンバーが減ってしまった定期利用団体がある。たくさんの人が辞めたことでモチベーションをなくし、メンバーが残っていても解散してしまった定期利用団体もある。

・定期利用団体によっては会員同士の連絡体制が不完全であり休止を知らなかった会員がいた。

・休止、再開の内部連絡不足。

・離脱会員の補充がままならない。

・コロナ禍では、声出しや人とのディスタンスを確保する状況の中では上手く活動ができない。定期利用団体としての課題というより、公民館施設としての問題提起が浮上していると思う。

・年齢層の高い団体は、長期に渡る活動休止により再開の目途が立たないまま解散となっている。継続している団体は、令和５年５月以降活動は戻ってきてはいるが、高齢により脱退する人もいる。
・高齢者が多く高齢化が進んでいるので活動中止から再開しても活動する参加者が少なくなってきている。
・高齢化率の高い利用団体だと一定期間活動が止まると再始動するのが困難なので、休止せざる得ない状況を作らないことも課題。
・多くの定期利用団体において、元々高齢化が進んでいた傾向があったが、コロナ禍の中で消滅していった団体が見受けられた。新規加入者によるメンバーの増加や世代交代が上手く機能していれば、こういった問題も回避できた可能性があると感じている。
・活動の長期中止などにより、利用団体の解散や団体登録人数の減少と併せてその間に進行してしまった高齢化や団体内での意思疎通の機会減少により円滑な運営ができていないところも見受けられる。
・サークルの発足がむずかしい。
・日頃のコミュニケーションや連絡体制の確立は重要だと感じた。コロナ禍のように対面交流が制限された際、電話などの連絡手段がなければ、活動の方向性を話し合うこともできなくなってしまう。
・感染症の場合、年齢・家族構成・仕事・持病など一人ひとりの置かれた状況が様々なので、その状況より公民館活動が OK な人、NG な人が発生するのは必然と思えた。その OK・NG の人々が分断しないような方法を取ることが課題。
・サークル団体の高齢化による活動休止が多かった。若い人は共働きが多く、サークル活動が難しいと感じた。
・コロナ禍で一時休止した団体の中でも長期間活動しない場合は、解散してしまうため、休止の期間を短くするようなサポートを公民館で行った方がよいと考える。
・小さい部屋で活動していた団体が過密を避けるため大きい部屋に活動場所を移したことにより、大きい部屋の需要が増し、日中の大きい部屋の利用が飽和したため、新規のスポーツ系サークルの参入が難しくなった。
・部屋の利用時間割を細分化することにより、団体の利用を調整する必要が生じた。
・新型コロナ感染に伴う定期利用団体の活動の休止よりも参加者の高齢化に伴う活動の休止・退会の影響が大きく、今後増加することが予想される。
・近年、高齢化による会員数減少を理由に解散する団体が多くなってはいたが、コロナ禍をきっかけとする解散が多く見受けられた。団体の存続のためにも、会員を募集したいと希望する団体へのサポートが必要と感じる。
・新しい団体を増やせるような講座の開催や、公民館の使い方とともに新しい団体を作るために必要な情報を周知するなど、考える必要があるのではないかと思う。
・会員層が高齢な団体には、活動日の集まり自体が連絡手段となっていたケースがあり、活動休止で集まりがないことが続いた際、中心となって連絡を行う方がおらず、休止が延長したと、後から伺ったケースが幾つかあった。
・コロナ禍をきっかけとして、会員数が減少傾向にある。
・会員数の少ない団体の中には、高齢化もあいまってコロナ禍を契機に活動を終了、また活動が存続していても会員数の減少が見られる。
・解散団体はスポーツ系サークルよりも文化系サークルのほうが多い傾向があった
・定期利用団体の駐車場の使用方法。コロナが落ち着き、活動が活発になると、食事会や他の場所での練習で駐車場の無断使用があり、公民館使用者の駐車に支障があるケースが確認された。
・密を避けるためにソーシャルディスタンスを考慮し、部屋に見合った人数での活動を促す。
・部屋の定員を減少させたため、開館していても活動に支障が出た団体がある。
開館時間の短縮期間では、夜間に活動しているサークルだけが利用できなくなった。
・休館や自主的な活動休止のため、活動発表の場へ出るための練習量が足らず、発表会を開催していたとしても出場を辞退せざるを得ない団体が多かった。
・感染対策を徹底することを条件に利用することができたため、緊急事態宣言などの制限下以外では休止する定期利用団体もなかった。

・利用者の高齢化が進む中で、コロナ禍が活動停止の引き金を引く結果となった団体があった。（俳句・押し花等のサークル）
・マスクの着用は自己判断であるが、高齢者の利用が多いことから、利用者の中にはマスク着用を義務化してもらいたいとの意見もあった。
・団体の会員募集など、手間のかかる活動に対して消極的になってしまい、サークルが衰退しやすくなっていること。

（３）定期利用団体について、コロナ禍を経験したからこそ生まれた良い変化があれば記入してください。

・公民館活動ができることを当たり前ではないことを感じ、より仲間が集まる活動時間を大切にしているように感じる。
・コロナ禍でも、個別で活動できる団体（または、座ってできる団体）、絵画、ギター、ヨガ等の取り組みが見られ、代表者のリーダー性により活発に活動を行った団体もあった。（健康マージャンクラブ・卓球サークル等）
・改めてリアルのつながりの楽しさを実感していた。
・定期利用団体が多すぎて、部屋が足りなかったが、解散する団体も出てきたので新しい団体が活動を始める余地ができた。
・感染症対策の一環として、各自スリッパ持参や手指消毒の協力をお願いしたところ、継続して協力してくれている。
・団体の会員間において、公民館で定期的に関りあう関係の重要性を再認識したこと。
・利用ごとの消毒をお願いしていたため、備品（テーブルや椅子など）が綺麗になっている。
・手指の消毒
・定期利用団体が、感染を防ぐための対策を自主的に積極的にしてくれたことで、感染を防ぐことができた。また、自主的に取り組んでくれることで、館内がコロナに関する注意書きの張り紙だらけになることを避けられた。
・マイスリッパ（上履き）の持参
・久しぶりに他の会員と会うことができ、嬉しそうにしている人が多く、所属している定期利用団体の存在の大きさに気づくことができたと思われる。
・コロナに限らず感染症についての知識と実践が継続している団体がある。
・公民館を利用して、活動できる喜びや有難さをより感じている人が増え、苦情等も少なくなっていると感じられる。
・特に衛生面において気を遣うようになったと感じている。来館時の検温、手指の消毒は現在も継続して行われており、またマイスリッパを持参する団体も増えており、感染症の流行している時期には大切なことだと考える。
・健康管理に配慮した日常生活を送ることで、各々が体調管理をした上でサークル活動に参加している。
・手洗いや換気などが日常的になり、料理教室などは、アルコールによる消毒や滅菌に日頃から気を付ける習慣ができたと思う。また、利用者や職員も健康に配慮した生活を送る傾向が増えている。
・飲食禁止となり、研修室などの汚れが少なくなった。
・周囲への感染を広げないため、コロナ禍の後も各利用者が自分の体調の変化に目を配り、少しでも異変がある際は活動への参加を自粛するようになってきている。
・来館者に聞き取り調査を行った際に「コロナ後、以前にも増して公民館活動ができるありがたさを感じる」との声を頂いたので、利用団体の方も活動できる喜びや他者に何かをしてあげるという喜び等を再認識したのではと思う。
・手指のアルコール消毒などは習慣として継続されているため衛生面で良いと思われる。
・当初過密を避けるために大きい部屋を利用するようになった団体は、容量が増したことにより会員が増加傾向にある。
・定期利用団体が部屋で活動する場合、換気、マスク着用、使用した机・いす等のアルコール消毒をお願いし、ほぼすべての定期利用団体の協力により徹底することができ、利用する公民館を大切に使用する意識が高まったと感じる。

・コロナ禍により消毒することが習慣となったため、利用する机等の清掃が念入りになった。
・新規会員を受け入れていなかった団体が、新規会員を募集するようになった。
・限られた時間で有意義に活動できるよう時間を大切にしている。
・手指消毒に対する意識が高まったように感じる。
・会員同士が交流を大事にしている様子がうかがえる。
・利用時間を守るようになった。
・一部団体であるものの、決められた掃除を行うようになった。
・会員一人ひとりが考えて状況判断をし、行動できる様になった。
・公民館で消毒作業をしていたこともあり、安心して利用できることへの感謝の言葉をもらえることが増えた。
・小学校の読み聞かせが中止となったが、そのメンバーが公民館読み聞かせボランティアとして加入したため、ボランティアメンバー数が増えた。また公民館で読み聞かせ活動ができない期間に、大型紙芝居を手作り制作するなどして今後の活動に備えた。
・コロナ前は公民館のスリッパを利用する人が多かったが、上履きの持参をお願いしたところ、アフターコロナにおいてもほとんどの利用者が上履きを持参するようになった。（階段の昇降時などの転倒事故防止に繋がった。）
・対面の交流が出来ることへの喜びを改めて実感したようで、公民館へのサポートも協力的であること。

（４）コロナ禍で減少した利用者が、現在（令和５年度）では戻りつつあると思いますが、その中から見えてきた課題や良い変化があれば記入してください。

・コロナ禍前からの課題であった公民館のハードユーザー世代の公民館利用の休止（卒業）を顕著に感じる。
・公民活動を継続できた利用者もおり、そういった方が長く公民館を利用できるようにすることが公民館求められるニーズであると感じる。
・参加者は、家の中にいるより、定期的に行われている活動に参加したいという気持ちを持っている。しかし、物理的に交通手段のない方以外、その活動内容や参加者、雰囲気に不安があり躊躇している場合があると思える。
・一方でその他の世代において、公民館の現在の設置の仕方、運営はコロナ前から若年層を対象にした事業の企画を行っているが、ミスマッチがあると感じる。
・公民館で活動している団体の活動を主催事業で実施することで、新しい会員が増えている。（ヨガ教室、ギター教室）
・定期的に活動を続けること。代表者の考えにより新会員を拒まずに取り込み、町内外より会員が増えている。しかし雰囲気や人間関係等で出入りも激しい。
・参加者（地域の方）の口コミで新会員が増加。令和４年度に実施した高齢者を対象にした体操教室（高齢者あんしんセンターの指導）が、参加された高齢者の口コミにより人数が増えている。
・コロナ禍の影響か分からないが、以前から見ると定期利用団体の数が減少している。利用者の年齢が高いことも原因のひとつだと思う。幅広い年齢層の利用を増やせれば良いと思う。
・活動を再開した団体に共通して言えることが、会員がそのまま辞めてしまい人数が減ったことに対し、新規加入する者がいない。しかしながら、以前よりもみんなと一緒に学び、お話ができる喜びを感じている。
・地区外の利用者が増えているので、もっと地域の団体などと連携して地域の人と密接な関係をつくりたい。
・既存の団体の一部において、新規の会員が増えている傾向がある。
・公民館利用者減少について、単に数量的な評価をすることは望ましくなく、公民館以外で過ごせる居場所ができた、見つかったという声があることから、地域住民の生涯学習支援という観点において良いことであると考える。
・交通の利便性や駐車場が広いことから地域外の団体からの利用申込みが多くある。地域活動が低迷しているところに地域外の団体が入ってきてしまったため、地域活動が動き始めたことにより、地域団体の利用が出来ない課題が生じた。

・芸能祭などの発表の場が戻ってきたため、サークル活動の目標ができた。
・新規の利用団体が増えた。
・非常事態宣言解除以降は、公民館利用者数はほぼ横ばいのため、課題や変化があったとは言えない。
・手指の消毒。マイスリッパ（上履き）の持参。
・公民館の活気が増す。
・コロナ禍において定期利用団体の会員同士の連絡体制が不完全だったことについて、講座などを通じ、スマートフォンなどを活用した情報伝達方法をもっと普及する必要があると感じた。
・課題としては、広い会場の利用が定着し、少人数の部屋が活用されない。
・各自で飲料用ボトルを持参するため、湯茶の利用が皆無となった。
・コロナ禍により、活動を断念した団体も多かったが、継続している団体は、より活動している価値観を一層見出しているように感じる
・高齢者が多く高齢化が進んでいるので活動中止から再開しても活動する参加者が少なくなってきている。
・コロナ禍の中で、ソーシャルディスタンスが当たり前になり、なるべく大きい部屋を使いたいという団体もあり、部屋の手配に苦労した。現在は以前ほどソーシャルディスタンスの話題はでないが、一旦大きい部屋で活動するようになった団体が元の部屋に戻ることはなく、今後公民館利用団体が戻ったり、増えたりすることにより、部屋の手配に苦心することが懸念される。
・定期利用団体会員の高齢化が課題
・サークル一覧表を見て加入を検討する人、また活動を見学する人が増えている。主催事業の申込者は、まなびネットを見て地域外からの参加者も増えている。
・コロナ禍で進行していた利用者の高齢化により一旦利用をやめてしまうとそのまま公民館に来なくなることもある。交流が減ってしまったことで仲間同士が疎遠になった場合も多く見受けられ、また、主催事業の申込地域を限定しないことにより地域外からの利用者が増えてきている。
・公民館をよく利用している人たちの年齢層は比較的高いため、気力や体力の維持が難しいと感じた。
・人が集まらなければ、公民館は衰退していく一方だと思う。現在の主な公民館利用層はリタイアした世代であり、これからの若い世代は地域社会との帰属意識の低下もあり、公民館で学ぼうという意欲も薄くなる可能性があると考えられる。その中で今後、新規の利用者を集めていくかが課題だと感じた。
・コロナ禍においては高齢者で構成する団体が多いので、健康を考慮した場合、活動休止や解散する団体が増える傾向にあった。一方でアフターコロナになり、定期利用ではないが単発や不定期で利用する団体も増えている。生涯学習に対する関心は高いことの表れではないか。
・皆でコロナという同じ苦難を経験しており、苦難後の開放やお互いに称え合う事等、乗り超えたもの同士が共有し合える要素は多いと思うので、一体となるという点では、ある意味公民館や地域にとってはチャンスなのではと思う。　（苦難後や乗り越えたという表現が正しいかは分かりませんが）
・サークル団体の高齢化によるサークル参加者の減少が課題。サークル活動によっては、主催事業として体験させることにより新規会員の増加がみられた。
・コロナ禍で家の中に閉じこもりがちになり、仲間同士のつきあいが少なくなったが、現在継続している団体は、人と人とのつながりが重要であることを認識し、公民館活動についても単なる趣味ではなく、人同士の繋がり合いが重要であると認識しているように感じる。
・活動意欲の弱い少人数の団体が解散し、より強い動機を持った団体が新たに活動を始める傾向が見られる。
・既存団体の内部でもより活動に積極的なリーダーに代替わりして、会員数を増やしている。
・利用者が６０歳から７０歳代の女性の比率が高く、男性の利用率が少ない偏重傾向がより顕著になってきたことが課題と言え、より若い世代や男性の利用増を図ることが課題。
・良い変化としては、家で過ごす時間が増えたため、読書をするための図書室利用が増えた。
・コロナ禍により、多くの人が以前よりも心身の健康の大切さを意識しだしたことがきっかけか、団体数は減少傾向ではあるものの、会員数が増加している団体が増えている。
・利用者数は回復しつつあるが、図書室利用数が全く戻らない。

・コロナ禍より比較的若い世代が代表者となり、活発な活動を心がけている。
・行動制限解除後に従来よりも活動回数を増やしたスポーツ系の団体があり、公民館で一番広い部屋の需要が増えている。
・定期利用団体の一部で、公民館利用時以外に昼食会や他の場所での練習等で、無断で駐車場を利用するケースが数件あり、公民館の利用者の駐車に支障が出たことがあった。
・会員数が減少による利用人数の減少
・掃除を疎かにする団体が出てきた。
・ホール、会議室（イス使用可）に利用希望が集中しており、逆に和室の利用率が少ない。
・利用者の感染症対策への意識が高まってきている。
・公民館主催事業が好評で、来館者が増加した。（古典文学、書道、クラフト、折り紙等）これらのうち書道、クラフト、おりがみは定期利用団体に発展・継続している。
・サークル活動が終了した後も、館内や駐車場で長時間立ち話している。（利用者の交流の場としてのプラス面と周辺住宅からの苦情というマイナス面）。
・手指消毒と換気が習慣化し衛生環境が改善した。
・利用者の高齢化と若年層（特に子ども）への公民館活動の周知が課題。
・脈々と続き、利用者がいつも同じような顔ぶれになってしまっていた主催講座についても、見直す良いタイミングになった。

３　その他

（１）コロナ禍だからこそ感じられた公民館の役割があれば記入してください。

・公民館のハードユーザー世代において公民館活動が生活の一部であること。
・参加者が興味・関心を持っている事業を進める。（公民館で学んだことが家庭でも、ひとりでできる、趣味となる内容等）
・市民が利用しやすい、足を運びやすい公民館運営を行う。
・不要不急の外出を控える中でも地域に密着した誰でも参加しやすい、参加したくなる講座等を企画し皆様の学習や交流の場としたい。
・学びを止めないための公民館運営
・世間情勢に合わせた事業展開
・開館していることに対して当初は、心配されていたが、徐々に居場所があるということで、有難がられるようになったと感じられた。
・月齢の近い赤ちゃんのお母さんの交流
・育児中の情報交換
・公民館の活動は定員を少なくしたり、感染対策をしたりして早くから再開したが、地域のイベントは３年間中止になっていた。普段から地域の団体と交流を持ち相談し合える関係を作れれば公民館の知見を活かせる場面もあったと思う。
・外出自粛の中でも、感染対策を行なった上で、公民館事業やサークル活動に参加することで地域住民の社会参加への機会を提供できる役割があったと考える。
・コロナ禍を経験し、いつの時代も地域には誰もが受け入れられる、気軽に交流できる居場所が必要だと再確認した。コロナ禍の息苦しさから公民館が心のガス抜き機能という役割を持ったのではないかと考える。すなわち、公民館が地域住民にとって「居場所の選択肢」になっており、その役割の重要性を感じている。
・コロナにより地域コミュニティー（地域のつながり）がうすれ、地域活動の担い手の減少や人材確保が急速に難しくなっていることから「地域と地域住民」のつながりを結ぶ役割が必要だと思う。
・令和４年度頃まで、公民館を継続利用していた方々から、「公民館くらいしか、安心してみんなが集まれるところがないよね」と言われることが多々あり、地域のよりどころとしての役割を改めて感じることができた。
・人のつながりを作る場
・不要不急の外出になるのではないかと主事として自問自答が続いていたが、外出もままならない時期の貴重な地域交流の場として、存在意義があったのではないかと感じる。

・集い、共に活動し、人々と交流を図ることの楽しさを改めて感じている人も見られたため、公民館は常に人々を受け入れられる施設として、重要な役割を担っていると感じた。
・小中学校の補完的な役割（学校閉鎖時の児童の受入れ）
・地元住民への情報提供の役割（拡大防止対策や感染症発生状況の市内状況等）
・地域の絆が薄れることへの危機意識の受け皿及び地域の各種事業再出発へのオブザーバー
・コロナ禍では人とのディスタンスを強いられてしまう反面、Zoom 等での人とのコミュニケーションもありだなと感じられた。
・令和３年度に中止にした事業に隔年開催の作品展示会があったが、令和５年に復活した際には、出品者より「また展示会が復活してくれて嬉しい」「前回は展示会が無かったので作品を出品できなかったが、展示会があると作品の制作に張り合いがある」と概ね好意的な意見をいただいた。作品制作系サークルの意見ではあるが、作品展示会という目的を持つことによって、向上心の持ちようも違ってくるのだろうと感じた。
・自粛の中、基本的な感染予防対策をとりながら事業を継続し、人々の学びの場や交流の場を提供すること。
・不要不急でない公民館活動
・ほとんどのサークルが休止する中、活動を続けていた利用者にとっては、交流の場として欠かせない居場所だった。
・コロナ禍で利用の制限や主催事業の内容変更は行ってきたが、地域の交流の拠点として、社会教育の場を提供してきたことは利用者にとって有意義な部分があったと思う。
・地域での人と人とのつながりを生み出す役割を強く感じた
・コロナ禍のような陰鬱な社会状況の中で、自発的な学習の場である公民館の存在意義は前向きな気持ちをもって生活していく糧になったと思う。
・コロナ禍だからというわけではないが、公民館は地域の人と人を結ぶ「橋渡し役」だと思う。道ですれ違う時、挨拶だけを交わす関係だった人同士が、公民館の事業で一緒になれば会話が生まれ、さらには生涯一緒にサークルで学びあう同志に発展する可能性もある。公民館はそのきっかけを事業により提供できる存在だと感じている。
・非対面非接触でも行う地域のつながりを提案していくなど、コロナ禍で学校が臨時休校だった時も、公民館・学校・地域住民のつながりを確保していたら児童への対応も変わったのではと思う。感染症や災害など非常事態でも継続した活動や提案を行っていける事は重要な役割と感じた。
・持続力と継続力
・地域の人が集まり、つながり合う場所として公民館は存在意義があるものと改めて感じた。
・「用事があって外出する」という生活習慣を持つことが、健康増進に寄与していると感じられる。「用事」のうちの一つとして公民館での活動は個人の生活にとってより重要な役割を担っていると感じる。
・新型コロナ感染対策のための消毒や換気、マスクの着用、ソーシャルディスタンスの重要性を掲示物、公民館だよりに掲載し、最新の情報を地域住民に提供することができたと思う。
・コロナ禍により活動自粛や中止を余儀なくされた期間が明け、利用者が戻っては来たものの、以前よりも元気がない、身体能力が低下してしまった人々を何人も見かけた。コロナ禍での人との関わり、日頃の運動時間の減少などにより、生きる活力が失われつつあったのではと推察する。公民館の役割としての「集う、学ぶ、結ぶ」ことが人々の「生きがい」につながり、心身ともにいきいきと生活するうえでいかに重要であるかを強く感じた。
・公民館利用は、月に数回程度の団体利用が多いが、活動内容が文化的な団体であっても、公民館に来て活動し、掃除をして帰るという行動は、身体を動かす契機になっていたと感じている。
・感染症対策を徹底し、感染者を増やすことなく、地域の特色を生かした事業を企画していくこと。
・行動制限を余儀なくされた状況においても、「今日用(教養)」と「今日行く(教育)」の場を提供し続けることで、人と人をつなぐ地域の拠点として重要な役割を果たしていると感じた。
・公民館活動が人との集いの場となっていること
・人と人とのつながり、コミュニケーションができる居場所の提供。
・人が集まることがよくない状況だったが、家に閉じこもることで溜まるストレスの緩和には、仲間と楽しく過ごす時間をつくれる公民館は必要なものだったと思う。

・子どもの居場所作り、マイナンバーカード申請補助会場など、コロナまん延期の市民支援活動。
・子育て支援事業（未就園児と保護者）を最寄りの公園で実施した。コロナ禍での屋外活動に理解をいただくと同時に、保護者に公民館が利用しやすい場所であることを認識してもらえる機会になった。
・館長を中心に公民館が地域や学校をコーディネートすることで、地域の伝統芸能継承教室を再開することができた。
・館長が主導して区長会定例会を開催し、区長、小学校長、館長が参加することで地域の課題や小学校の課題を共有することができた。そこから小学校の授業で、地域のまつり太鼓やまつり神輿の継承教室、しめ縄づくりの体験教室の実施につながっている。
・地域の伝統や、関係団体とのつなぎ目の役割
・行動の着火点（起点）となる役割（イベントやお祭りなどの再開のタイミングなどを図るときのきっかけになること）

（２）コロナ禍での公民館活動を通じて感じたことや気づきがあれば記入してください。

・公民館は、平時の時こそ必要な施設であること。
・コロナ禍では、人が人生を楽しみ、学ぶ機会が喪失してしまった。
・活動が戻る中で、利用者の来館する様子を見ると、この機会を提供でき、住民が参加、利用できることはすばらしいことであること。
・定期的に活動を続けることは、仲間作りとなり、参加者も楽しみで参加する。
・コロナ禍で小学校が臨時休校になっていた時、公民館が受け入れていたことは良かったと思う。
・利用団体のメンバーにとって定期的な活動に参加することは、日常生活のリズムが保たれ、仲間同士のつながりが感じられる機会として大切なことであり、生涯学習の良い一面だと感じた。
・住民の自発的学びを醸成するため、さまざまな学習方法の提案ができるようにする。
・地域のイベントの中止や町内会の活動の縮小などにより地域での交流がほとんどなくなってしまう中で、公民館活動は感染防止対策をやりながら継続していたのでこの間の地域の交流に寄与できていたと思う。
・１回の募集人数を減らし、午前・午後と開催したことにより、参加者の学習機会が増える一方、予算の都合上、開催する事業の種類が減ったため、企画に苦慮した。
・団体活動や事業の継続はとても大事だと感じた。再開するのは、なかなか難しいと感じた。コロナ禍を経験し、いつの時代も地域には誰もが受け入れられる、気軽に交流できる居場所が必要だと再確認した。コロナ禍の息苦しさから公民館が心のガス抜き機能という役割を持ったのではないかと考える。すなわち、公民館が地域住民にとって「居場所の選択肢」になっており、その役割の重要性を感じている。
・コロナ禍でも細々と活動していた団体は活動継続している。コロナ禍で一時活動休止した団体は、そのまま活動休止することが多い。
・地域に必要不可欠な施設
・公民館は多くの方が利用するため、コロナ禍で行なっていた利用団体による消毒は、「安全・安心」と「公民館の美観」を兼ねているため続けた方が良いと思う。
・定期利用として活動を継続できたサークルがほとんどだが、今後も長く利用できるように公民館としても協力は必要であるが、一方で以前にもまして、定期利用団体の既得権化の主張が多くなってきているのが現状であり、利用について理解してもらうのも課題の一つだと思う。
・講座などは開催できなくても、サークルや地域の人の交流の場として開館する意義はあったと感じる。
・学びを止めないで、参加者が少なくとも細々と事業を実施した結果。参加者からは、個別指導のようで講師を身近に感じられ良かったとの感想があった。
・色々な制限を強いられたことにより、人々が集う大切さや素晴らしさが身に染みて感じられることとなった。そのようなことを考えると一部の利用者しか無いかもしれないが、集う受け皿は貴重だと思う。

・高齢化によりサークル数、利用者数ともに減少している。現役世代は核家族化や共働き世帯の増加等により公民館活動に参加する余裕はなく、定年退職後も７０歳近くまで働く層が増えている現状があり、従来の６０歳の定年後の層が事業へ参加する、サークル活動へ参加する等のモデルが通用しなくなっている。そのため、現役世代等が参加しやすい土曜・休日等に事業を開催すること、現役世代の関心事に焦点を当てた事業を企画すること、サークル活動に繋がるような事業を企画すること等が今後の課題である。
・いきいきサロンのような地域の方のちょっとした集まりが大事だと改めて気付かされた。いきいきサロンがあることによって、お互いの顔を見たり、話をしたり、健康確認やずっと家の中にいるだけでは得られない心の開放感を養ったりすることもできる。ちょっとした集まりのできる公民館の役割について改めて認識できた。
・感染症対策としては活動自粛が基本だが、元気な方は、マスク・手洗い等して、活動を行える。また、微熱等些細な体調変化でも、自主的に活動自粛をすることが徹底され、安全な公民館活動ができていたと思う。
・高齢者が家の中で閉じこまらずに外に出て公民館に来てもらいたい。
・主催事業は少人数で開催することもあったが、現在の利用者はコロナ前と変わらぬ姿に戻り、楽しく活動できる日常はかけがえのないものと思う。
・主催事業では、参加者の減少に戸惑いや悩みを抱えながら行ってきたが、ここにきて少しながら増加傾向にあるのは喜ばしいことである。コロナ禍で進行していた少子高齢化については、高齢者には参加しやすいように易しい内容の教室、子ども対象の事業では地域外からも呼び寄せることが出来るように工夫を図りたい。
・公民館をよく利用している人たちの年齢層は比較的高いためインターネットを活用した活動は手をつけることに躊躇している。今後は、次世代（子ども達）の利用を育てていきたい。
・コロナ禍を経験したことで、表情の変化が感じられる対面での交流の有難みを再認識することができた。未だに公民館活動における利用者のマスク着用率は高いが、近い将来、コロナ前の日常が戻ることを期待したい。
・集う事が制限され改めて人が集う事の重要性を感じられた。今後このような感染症が起きた際、どのように館を運営していけば良いのかという経験になった。
・コロナ禍において、住民の学習意欲等が削がれたと感じた。
・アフターコロナになり、利用者には生涯学習の場としていきいきとした顔で公民館を利用していただいている。公民館は改めて必要なものであると再認識した。
・新型コロナにより世界全体が一時パニック状態になったが、各種制限はあるものの公民館は短期間の閉鎖で再開できて良かったと考える。
・人数が少なくなった定期利用団体は休止から解散になることが多かったため、ある程度公民館でサポートを行うことにより団体を継続させるような気配りは重要と考える。
・自粛ムードの中でも、惰性ではなく本当にやりたい活動は継続された。
・当館の場合、音楽、特に発声を伴う活動が活発化してきた。歌を歌うことが心身の健康に寄与するものであると感じる。
・従来のやり方を大幅に変える必要が生じたため、当初困惑したが、次第に感染防止対策にも慣れ、それに沿った形での講座、教室を企画することができるようになった。
・どんなできごとにも良い面と悪い面が存在するということを改めて実感した。
・緊急事態宣言やまん延防止等により、公民館の利用が制限されることにより、主催事業を実施する場合においても、常に感染症対策に配慮しなければならないことが負担となった。通常どおり利用できることが、いかに有り難いことかが感じられた。
・地域での感染症流行状況が主催・共催事業にも影響したことで、改めて地域と公民館の距離の近さを実感した。
・コロナ禍ならではの事業の開拓・工夫につながった。
・十分とは言えないものの、公民館に集うことができない中、オンライン講座や動画配信等の取り組みがなされたことは意味があったと思う。
・感染症対策をしつつ途絶える事の無い活動を継続することの大切さ。
・全国で患者が大量に発生している状況で、主催事業を開催し続けても良いのかどうか、迷いながら取り組んでいた。

・国、県等の対応方針の変更が常に施行直前で示され、最後まで振り回された。同じ公民館でも、前橋など県内近隣市での対応がまちまちで、職員・利用者ともに混乱した。
・人数制限などをしたことにより、利用人数は減少していたが、利用者の参加意欲はコロナ禍以前と比べてもあまり変わらないように感じた。
・館長としてコロナ禍の公民館活動しか知らないが、一部のヘビーユーザーだけでなく裾野の広い利用者層の形成に努めていきたい。
・公民館が臨時休館から再開したとき、利用者から「再開してくれてありがとう」との言葉をいただいた。やはり仲間と会って楽しい時間を過ごす場所として、公民館の役割はとても大事であると思った。
・既存のやり方や形式に当てはめて判断するだけでなく、状況に合わせて実現可能な形を模索し続けることが大切だと思う。

コロナ禍における公民館の取組状況の変化に関する調査票

以下の各設問について、枠内に回答を記入してください。

館　　名	公民館

1　公民館事業について

（1）コロナ禍により、それまで継続して実施してきた事業で中止せざるを得なかった事業、計画していたが実施できなかった事業があれば記入してください。

該当事業数	事業

該当事業数に応じて以下の枠を増やして事業内容を記入してください。

事業名	
年度	令和　　年度
内容	
中止又は未実施の理由	

（2）コロナ禍を契機に新たに始めた事業や、コロナ禍に対応するため新たに実施方法を工夫しながら取り組んだ事業などがあれば記入してください。

該当事業数	事業

該当事業数に応じて以下の枠を増やして事業内容を記入してください。

事業名	
年度	令和　　年度
内容	
開催した目的	
開催時の工夫	
参加人数	

（3）上記の経験をとおして、今後、公民館事業を企画・実施する中で、特に重視したい視点（内容・実施目的など）があれば記入してください。

２　公民館の定期利用団体・利用者について

（１）定期利用団体数の変化を記入してください。※令和５年度は、令和５年 12 月末現在

年　度	増	減	年度末現在
令和２年度	団体	団体	団体
令和３年度	団体	団体	団体
令和４年度	団体	団体	団体
令和５年度	団体	団体	団体

（２）コロナ禍で活動を休止せざるを得ない状況を経験した中で、定期利用団体の課題として見えてきたことがあれば記入してください。

（３）定期利用団体について、コロナ禍を経験したからこそ生まれた良い変化があれば記入してください。

（４）コロナ禍で減少した利用者が、現在（令和５年度）では戻りつつあると思いますが、その中から見えてきた課題や良い変化があれば記入してください。

３　その他

（１）コロナ禍だからこそ感じられた公民館の役割があれば記入してください。

（２）コロナ禍での公民館活動を通じて感じたことや気づきがあれば記入してください。

ご協力、ありがとうございました。

令和５・６年度　高崎市公民館運営審議会実施報告

	開催日時	開催会場	内　　容
第１回	令和５年 ８月 30 日(水) 午後１時 30 分 ～3 時 25 分	高崎市 下里見公民館	１　委嘱状交付 ２　会長、副会長の選出について ３　高崎市公民館運営審議会について ４　下里見公民館の取り組みについて
第２回	11 月 29 日(水) 午後１時 30 分 ～3 時５分	高崎市 北部公民館	１　北部公民館の取り組みについて ２　令和５・６年度の取組内容について
第３回	令和６年 ２月２日(金) 午後１時 30 分 ～3 時 12 分	高崎市 中央公民館 集会ホール	１　公民館職員との意見交換 ２　アンケート調査の実施状況について ３　専門委員会の設置について
第４回	３月６日(水) 午後１時 30 分 ～3 時５分	高崎市 中央公民館 集会ホール	１　高崎市公民館長任命に関する意見聴取 ２　令和５年度高崎市公民館事業実績報告・審議 ３　令和３・４年度意見具申への取り組み状況 ４　アンケート調査の結果について ５　専門委員会の設置について
第５回	７月 18 日(木) 午後１時 30 分 ～2 時 40 分	高崎市 中央公民館 集会ホール	１　委嘱状交付 　学校教育関係者１名　学識経験者１名 ２　提言に関わるこれまでの経緯 ３　提言の柱（案）について
第６回	11 月 26 日(火) 午後１時 30 分 ～2 時 52 分	高崎市 中央公民館 集会ホール	１　令和５・６年度提言（案）について ２　提言に関わる事例の紹介
第７回 (予定)	３月５日(水) 午後１時 30 分 ～3 時 00 分	高崎市 中央公民館 集会ホール	１　高崎市公民館長任命に関する意見聴取 ２　令和６年度高崎市公民館事業実績報告・審議 ３　令和５・６年度提言について

専門委員会実施報告

	開催日時	開催会場	内　　容
第１回	令和６年 ６月 20 日(木) 午後１時 30 分～3 時 16 分	高崎市 中央公民館 第２集会室	提言の柱について
第２回	９月５日(木) 午後１時 30 分～3 時 33 分	高崎市 中央公民館 第２集会室	提言内容について
第３回	10 月 22 日(火) 午後１時 30 分～3 時 51 分	高崎市 中央公民館 第２集会室	提言内容について

委員に関わる公民館行事

開催日	会議・事業	場　　所
令和５年 ５月 26 日(金)	群馬県公民館連合会総会及び研修会	桐生市立中央公民館
８月 23 日(水)	群馬県公民館連合会公運審部会総会	前橋市中央公民館
９月 28 日(木) 29 日(金)	全国公民館研究集会 兼　関東甲信越静公民館研究大会長野大会	長野県長野市
10 月 26 日(木)	西部ブロック公民館研究集会 兼　高崎市公民館研究集会	高崎市文化会館
11 月 22 日(水)	群馬県公民館研究集会 兼 公運審部会研修会 兼 北部ブロック公民館研究集会	吉井町文化センター
令和６年度 ５月 29 日(水)	群馬県公民館連合会総会及び研修会	桐生市立中央公民館
10 月 15 日(火)	群馬県公民館連合会公運審部会総会	前橋市中央公民館
10 月 23 日(水)	高崎市公民館研究集会	高崎市中央公民館
11 月７日(木) ８日(金)	全国公民館研究集会 兼　関東甲信越静公民館研究大会新潟大会	新潟県上越市
11 月 27 日(水)	群馬県公民館研究集会 兼 公運審部会研修会 兼 北部ブロック公民館研究集会	前橋市中央公民館

令和５年度 高崎市公民館運営審議会委員名簿

第１号委員（学校教育の関係者）

No.	氏　　名	推薦団体・役職等	備　　考
1	前　　島　　朗	高崎市小学校長会（高崎市立八幡小学校長）	

第２号委員（社会教育の関係者）

No.	氏　　名	推薦団体・役職等	備　　考
2	原　　徳　　応	公益社団法人高崎青年会議所会員委員会副委員長	
3	星　野　雅　代	高崎市ＰＴＡ連合会副会長	
4	串　田　昭　光	高崎ユネスコ協会会長	会　長
5	三　澤　憲　一	高崎観光ガイドの会会長	
6	小　高　広　大	特定非営利活動法人Next Generation理事長	

第３号委員（家庭教育の向上に資する活動を行う者）

No.	氏　　名	推薦団体・役職等	備　　考
7	小　屋　美　香	育英短期大学教授	
8	内　田　祥　子	高崎健康福祉大学准教授	

第４号委員（学識経験のある者）

No.	氏　　名	推薦団体・役職等	備　　考
9	青　　柳　　隆	高崎市議会教育福祉常任委員長	
9	櫻　　井　　登	高崎市区長会副会長	
11	小　見　勝　栄	学童クラブ園長、元教育委員長	
12	植　原　孝　行	元群馬大学講師	
13	原　田　和　之	倉渕地区選出委員	
14	山　口　堅　二	箕郷地区選出委員	
15	秋　山　美和子	群馬地区選出委員	副会長
16	丸　茂　ひろみ	新町地区選出委員	
17	上　條　ちづ子	榛名地区選出委員	
18	品　田　佳　江	吉井地区選出委員	

第５号委員（公募した市民）

No.	氏　　名	推薦団体・役職等	備　　考
19	井澤　千代美		
20	岡　部　敬子		

令和６年度 高崎市公民館運営審議会委員名簿

第１号委員（学校教育の関係者）

No.	氏　　名	推薦団体・役職等	備　　考
1	佐　藤　芳　正	高崎市小学校長会（高崎市立城東小学校長）	

第２号委員（社会教育の関係者）

No.	氏　　名	推薦団体・役職等	備　　考
2	原　　徳　応	公益社団法人高崎青年会議所地域共育推進委員会理事副委員長	
3	星　野　雅　代	高崎市ＰＴＡ連合会副会長	
4	串　田　昭　光	高崎ユネスコ協会会長	会　長 専門委員
5	三　澤　憲　一	高崎観光ガイドの会会長	専門委員
6	小　高　広　大	特定非営利活動法人Next Generation理事長	専門委員

第３号委員（家庭教育の向上に資する活動を行う者）

No.	氏　　名	推薦団体・役職等	備　　考
7	小　屋　美　香	育英短期大学教授	
8	内　田　祥　子	高崎健康福祉大学准教授	

第４号委員（学識経験のある者）

No.	氏　　名	推薦団体・役職等	備　　考
9	大河原　吉　明	高崎市議会教育福祉常任委員長	
9	櫻　　井　　登	高崎市区長会副会長	
11	小　見　勝　栄	学童クラブ園長、元教育委員長	
12	植　原　孝　行	元群馬大学講師	
13	原　田　和　之	倉渕地区選出委員	
14	山　口　堅　二	箕郷地区選出委員	専門委員
15	秋　山　美和子	群馬地区選出委員	副会長 専門委員
16	丸　茂　ひろみ	新町地区選出委員	
17	上　條　ちづ子	榛名地区選出委員	
18	品　田　佳　江	吉井地区選出委員	

第５号委員（公募した市民）

No.	氏　　名	推薦団体・役職等	備　　考
19	井澤　千代美		専門委員
20	岡　部　敬子		専門委員